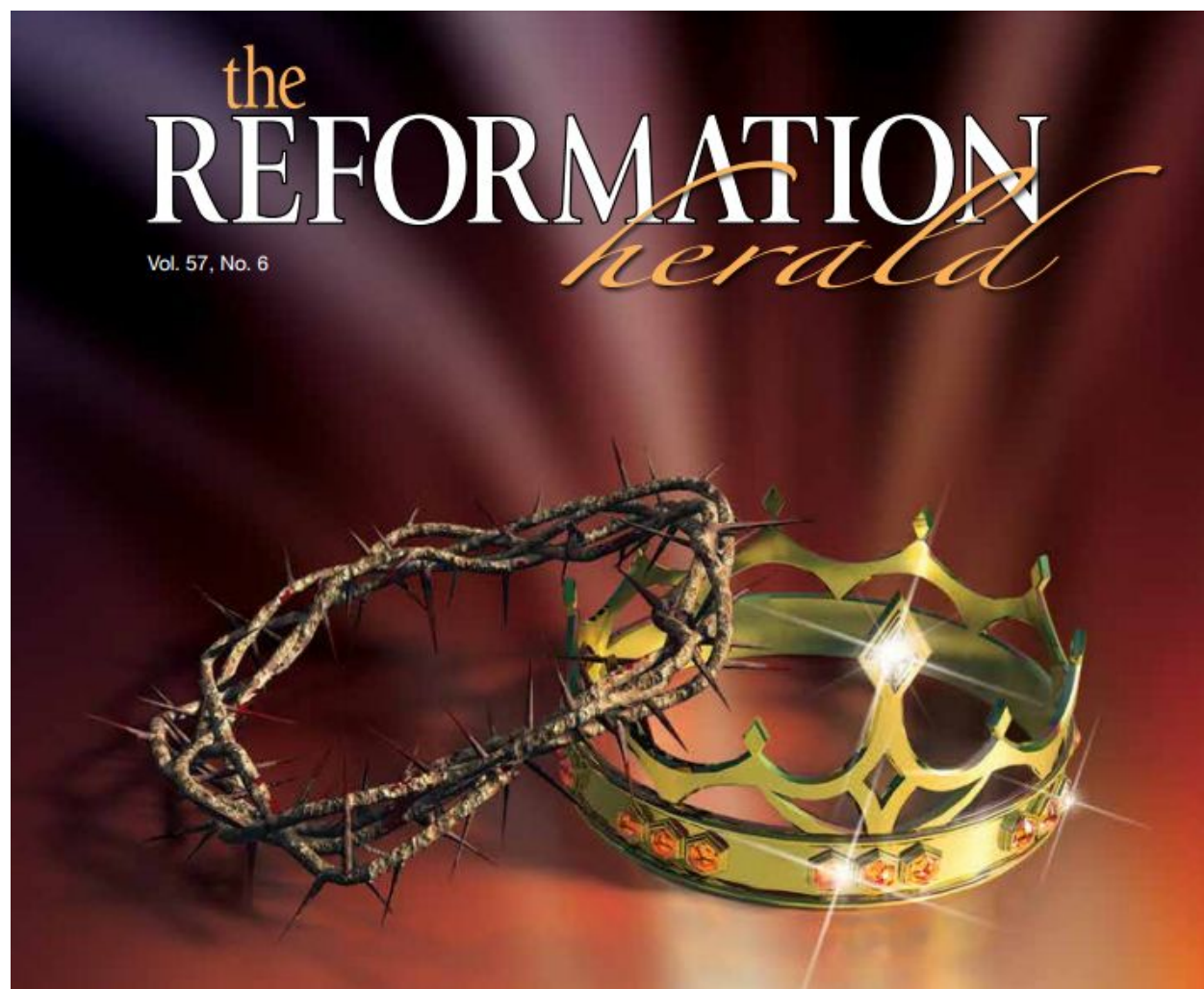




勝利の生涯

祈祷週 2016 年 12 月 2 日-11 日

目次

勝利の生活

エノクー神と共に歩んだ人 5

金曜日 2016 年 12 月 2 日

アブラハムー信仰の父 10

安息日 2016 年 12 月 3 日

ヨセフー忠実な青年 16

日曜日 2016 年 12 月 4 日

モーセー優しくへりくだった指導者 22

水曜日 2016 年 12 月 7 日

エリヤーー回復の預言者 28

金曜日 2016 年 12 月 9 日

ダニエルー道徳的及び知的巨人 34

安息日 2016 年 12 月 10 日

勝利の生涯を送る 40

日曜日 2016 年 12 月 11 日

勝利の生涯 46

詩

今年もまた 1 年が終わろうとしています。このことを考えるとき、我々は、神の御心にかなった、靈感を受けた人の言葉をくり返すために立ち止まるべきではないでしょうか。「主よ、大いなることと、力と、栄光と、勝利と、威光とはあなたのものです。」「その右手と聖なる腕とは、おのれのために勝利を得られた。」（歴代史上 29:11、詩篇 98:1）。

今年、我々の多くは、良い時期と悪い時期とを経験したことでしょう。誰も失敗や失望を経験したいとは思いません。それでは、勝利への鍵は何でしょうか。それは、我々がイエス・キリストに完全に屈服することにより、イエス・キリストが我々の生活の中において聖霊を通じて働きをなすことです。これにより 我々はイエス・キリストの明らかにされた意志に従いながら、彼の教えに従う力を得ることが出来ます。

年末は、神が我々一人びとりを優しく、慈悲深く保護してくださったことについて神に感謝するための素晴らしい機会です。また、年末は、霊的な自己評価をするための最良の機会を提供します。我々は、イエスに信頼し、このお方を継続的にながめ、このお方が流した血の力を通じて我々の欠点を克服することにより、猶予期間の終わりのための準備をしているのでしょうか。

今年の祈禱週の読み物は、我々を正しい方向に導くことを目的としています。キリストを通した勝利の生き方というテーマについて信心深く検討しましょう。また、次の日を念頭におきながら、この読み物を孤立している人々や家の中でしか過ごせない人々とも共有しましょう。

祈りと断食:

安息日 12 月 10 日

伝道献金:

日曜日 12 月 11 日

我々が単に理論について喜ぶだけではなく、完全で真摯な確信に従って次のように宣言できるように主がしてくださることが我々の祈りです。

「しかし、感謝すべきことには、神はわたしたちの主イエス・キリストによって、わたしたちに勝利を賜ったのである。」、「わたしたちの信仰こそ、世に勝たしめた勝利の力である」（コリント第一 15:57、ヨハネ第一 5:4）。

**Official Church Publication of the Seventh Day
Adventist Reform Movement**

「わたしたちが生存している時代は改革的な行動を要求している」教会への証 4 巻 488

Editor D. P. Silva

Assistant to the Editor B. Montrose

Layout and Design H. Melnychuk

Web: <http://www.sdarm.org>

E-mail: info@sdarm.org

Illustrations: Sermon View on the front cover and on pp. 3, 4, 7, 8, 12, 15, 16, 20, 24, 28, 31, 32; Adventist Digital Media on pp. 11, 19; picture by Giovanni Francesco Barbieri on p. 22; picture by Briton Reviere on p. 27.



勝利者

黙示録第 2 章、第 3 章において、我々は、神の教会における 7 つの異なる時代における勝利者への 7 つの約束を確認することができます。

黙示録第 2 章、第 3 章において、我々は、神の教会における 7 つの異なる時代における勝利者への 7 つの約束を確認することができます。

1. 命の木への道。
2. 第 2 の死からの解放。
3. 食べるための隠されたマナ、およびイエスの新たな名が書かれた白い石。
4. 国々に対する権力、キリストご自身である明けの明星（贖われた者は、キリストの永遠のご臨在という特権を享受することができる。）。
5. キリストの義である白い衣、および彼らの名が永遠に小羊の命の書に書かれること。
6. キリストの宮において柱になること（救われた者は、永遠に神のご品性を反映する）。
7. 彼らは、キリストと共にその御座に座すること。

あなたは、これらの約束を喜びますか？ もちろんそうでしょう。私もそうです。神は彼の約束を果たすことにおいて誠実であることを心に留めましょう。しかし、そのためには、我々は、神の恵みにより勝利者となるための条件をみさなければなりません。

我々の最初の両親が罪に陥ったときから、人類は道徳面において弱くなり、彼ら自身の力では悪に打ち勝つことができなくなりました。しかし、アダムとエバが罪をおかしたその日に主は、サタンに打ち勝ちその最大の敵の頭を打ち砕くという約束をすることにより、彼は希望の星を彼らに示されました。

我々は、聖書の歴史の初期の頃から神に従った勝利者の生き方を知るという祝福を受けることができます。アダム、アベル、セツ、エノク、メトセラ、ノア、アブラハム、イサク、ヤコブ、サラ、ヨケベデ、ハンナ、ルツ、アビガイル、デボラ、ラハブ、ギデオン、バラク、サムソン、および聖なる書物に書かれた膨大なリストに書かれた他の英雄達。

我々が、これらの人々の生活を注意深く分析する際には、彼らが重大な品性の欠陥をもっていたにもかかわらず、信仰によってこれらに打ち勝ったことを発見することができます。そして実際、ヘブル書のリストにおいては、「信仰により」という言葉がすべての名前の前に付いています。

我々は、同じ方法によって品性の欠陥に打ち勝つことができます。すなわち、世の罪を取り除く神の小羊に対する信仰によってです。我々のそばには、同じ慈悲深い神、同じ恵み、同じ神聖な代理人たちがいます。我々が力強い救い主に訴えるときはいつでも、彼らは喜んで我々を助けたいと願っておられます。

我々は、打ち勝つための戦いにおいて同じような敗北を経験しているのでしょうか。これらの英雄たちも同様に敗北を経験しました。しかし、彼らの最終的な勝利は、我々も打ち勝つことができるという保証です。

この祈禱週において、我々は、聖書に書かれている何人かの英雄の生き方を注意深く検討します。これは、非常に有益な研究です。しかし、それ以上に、我々は彼らが受けた恵みと同じ恵みを受けることにより、我々は彼らと同じ勝利を得ることができるのです。我々は主イエス・キリストと共にいることにより打ち勝つことができます。そのことを確信しなければなりません。神の祝福がありますように。

エノクー神と共に歩んだ人

金曜日 2016 年 12 月 2 日

ホワイイト夫人の書物からの引用

世の状態

世界中の各都市が罪惡の温床と化している。どこにおいても罪惡を目にし、耳にし、墮落放蕩への誘惑が至るところに存在する。腐敗と犯罪の傾向はつねに増大し、日々、暴動、略奪、殺人、自殺、その他名もつけられないような犯罪の記録が重ねられている。

都市生活は虚偽で不自然である。金銭を獲得しようという強い欲望や不断の興奮、快樂の追求、みえ、奢侈、ぜいたく、こうしたすべてのことが人生の眞の目的から大ぜいの人の心をそらせてしまう。そして、数知れぬ罪惡への門を開き、青年男女の上にほとんど抵抗しがたい力を持っている。

都市の子供や青年をおそう最も狡猾で危険な誘惑は快樂を愛することである。祭日が多く、競技や競馬が幾万の人を集め、連続した興奮と快樂は人生のまじめな仕事から人の心を奪ってしまう。もっと良いことのためにたくわえねばならない金銭が娛樂のために消費されていく。

独占企業の活動や労働組合やストライキによって都市の生活状態は刻々、困難になっていっている。恐ろしい災難が迫っている。¹

今日、あらゆる種類の犯罪が金儲けのために使われている。利己心、詐欺、強盗、流血の惨事はこの世における実際のソドムを作り出しており、この世の住民を大洪水前の住民と同じような者にしている。所有することへの欲望において、神の律法は犯されている。²

人々は神の要求への服従から解放されているという教えは、道徳的義務の力を弱めており、この世に惡を引き込む扉を開いている。無法であるこ

と、浪費、墮落は、大きな津波のように我々に押し寄せている。家族において、サタンは働いている。サタンの旗は、クリスチャンの家庭であると公言している家族においてさえ、はためている。そこには、妬み、悪い考え、偽善、逸脱、競い合い、争い、聖なる信頼への裏切り、欲望に浸ること等がある。宗教的な原則や教理の全体系、すなわち社会生活の基礎と骨組みを作りなすべきものが、大きくよろめき、破たんするばかりである。最惡の犯罪者がその犯罪のために刑務所に収容された場合、彼らはたびたび贈り物や注目を受け、羨ましい地位を獲得したかのように見えることがある。彼らの性質や犯罪は、広く公になる。新聞は、その反乱的な惡の詳細を公表し、これにより、ほかの者が詐欺、強盗、殺人を実際に真似するようになる。サタンは、この地獄のような図式が成功することを大いに喜ぶ。惡におぼれること、残酷に命を奪うこと、あらゆる種類と程度の不摂生や惡の増大により、神を恐れる者はみな目覚めて、惡の潮流を止めるために何ができるかを尋ね求めるべきである。³

世の人々は、名譽を得ることを熱望する。彼らは、家、土地、大金を求める。これらは、世の基準によれば、偉大なものである。彼らは、優越感をもって貧乏な人をみくだすことのできる高い地位を獲得することを熱望する。これらの魂は、砂の上の建物であり、彼らの家は、直ちに崩壊する。地位の高さは、眞の偉大さではない。魂の価値を増加させないものは、それ自体眞の価値をもたない。⁴

**教会においてさえ、
これがどのように表されているか**

霊的な誇り、支配への欲望、名誉や地位の熱望、自制心の欠如、情熱や偏見にふけること、判断力の不安定さまたは欠如により、教会は混乱に陥り、またその平和は犠牲にされる。

困難は、しばしば噂話を広める者により引き起こされる。彼らがささやくほめかしや意見は、疑わない者の頭を毒し、親友の関係を引き離す。開いた耳と悪の心をもって「報告しなさい……そうすれば、我々も報告しよう」と言う多くの人々により、仲間を引き離そうとする者がその悪の働きにおいて支援されている。」⁵

敵は、我々のところにきて、今なされるべき重要な働きから我々の心を引き離そうとする。彼は、我々が些細な事柄に携わり続けるようにしむけ、また他の者を批判し、非難することが我々の領分であると考えさせるようにしむける。しかし、我々のなすべき仕事は、我々自身の魂と誠実に向き合うことである。我々は、自分の心を探り、我々が神の御目に正しい者であるか探らなければならない。ペテロは、キリストに、ヨハネについて「主よ、この人はどうなのですか」と尋ねた。しかし、主は彼に「あなたにはなんの係わりがあるか。あなたは、わたしに従ってきなさい」とお答えになった。我々には、自分のなすべき仕事がある。我々が他人を批判する場合、我々は最も重要なことを軽視している。⁶

我々の諸教会にイエスとその愛が欠如していることを主が私に提示されたために、私は数年の間、魂の苦しみを感じた。そこには、自己満足の精神と地位と優越さを求める傾向があった。私は、自己に栄誉を帰そうとすることがセブンスデー・アドベンチストにおいて一般的になっていることを見た。そして、人の誇りが低くされ、キリストが高められない限り、我々が民として再臨の時にキリストを受け入れる状態は、ユダヤ人がキリストを初臨の時に受け入れる状態とまったく同じなのである。⁷

我々はいかにして蔓延している考え方を回避できるか

神の民を世の人々から区別する特徴は、謙遜である。自尊心や自己義が最も小さく、自己信頼や自己革新が最も小さい人、へりくだって信頼する信仰によって神を待ち望む者は、神に最も近く、神から最も尊ばれている人である。名誉や地位において他の者と同等、あるいはそれを超越する者となることを望むかわりに、我々はへりくだった信心深いキリストの僕になるべきである。……

自己愛、自己高揚、誇りは大きな弱点である。しかし、謙遜には大きな力がある。自己愛や尊大さは、謙遜や謙虚さと比較した場合、本当に弱点である。救い主を心の支配者とさせたのは、彼の優しさ、率直で気取らない態度である。しかし、我々が神から分離した状態、すなわち自分たちの誇りと闇のうちにあるとき、常に自己を高めようとし、心の謙虚さが力であることを忘れてしまう。⁸

エノク—今日における我々の模範

エノクは、人類における最初の預言者であった。彼は、キリストの再臨と彼のその時の働きを預言によって予め伝えた。彼の生活は、クリスチャンの一貫性についての見本であった。非難と裁きにおいて、聖なる唇のみが神のみ言葉を語るべきである。彼の預言は、旧約聖書には書かれていない。我々は、エノクの働きに関する書物を見つけることはできない。しかし、神の預言者であるユダは、エノクの働きについてふれている。⁹

主をおそれた人々は、エノクから教えを聞き、共に祈るために集まってきた。彼は、また、人々の間で公の伝道に従事し、警告の言葉に耳を傾けるものには、だれにでも神の使命を伝えた。彼は、セツの子孫のためだけに働いたのではなかった。カインが主の前からのがれてきた土地でも、神の預言者は幻に見た驚くべき光景を人々に伝えた。

「見よ、主は無数の聖徒たちを率いてこられた。それは、すべての者にさばきを行うためであり、

また、不信心な者が、信仰を無視して犯したすべての不信心なしわざ……を責めるためである」
(ユダの手紙 14, 15)。

彼は、恐れることなく罪を譴責した。彼は、その時代の人々に、キリストのうちに表わされる神の愛を説き、悪の道から離れることを熱心に訴えるとともに、広く行なわれていた罪悪を責め、律法にそむく者には、必ず刑罰が臨むことを警告した。エノクを通して語ったのは、キリストのみ霊であった。このみ霊は、愛と同情と勧告の言葉だけを語るのではない。聖者たちが語るのは、耳に快くひびくことだけではない。神は、その使命者の心とくちびるに真理を与えて両刃の剣のように、するどく痛烈な言葉を語らせられるのである。

神のしもべを動かした神の力は、それを聞いた人々に感じとられた。警告に従って、罪を離れた者もあったが大多数は、厳粛なメッセージをちょう笑し、ますます大胆に悪の道に走った。終末時代の神のしもべたちは、同様の使命を世に伝えなければならない。そして、それは、また、不信とちょう笑をもって迎えられであろう。洪水前の世界は、神と共に歩んだ者の警告の言葉を拒否した。そのように、終末時代の人々も主の使命者たちの警告を軽んじるであろう。¹⁰

〔エノク〕は、また、キリストの再臨のときにおける墮落した世の状態を見た－それは、自慢をし、傲慢で、身勝手な世代であり、神の律法に反乱するものであった。その世代は、唯一の神と我々の主イエス・キリストを否定するものであり、彼の血を踏みにじり、彼の償いを見下す者たちであった。彼は、正しい者達が栄光と誉の冠をかぶっているのをみた。他方で、悪人たちは、主の存在から切り離され、火で焼かれた。¹¹

エノクの場合では、意気消沈した信心深い者達は、自分達の創造主に対して公然と大胆に反逆する墮落した罪深い人々のなかでくらしただとしても、もし彼らが主に従い、約束された救い主への信仰をもつならば、信仰深いエノクのように義を行い、

神に受け入れられ、最後には彼の神の王座へと引き上げられることを教えられた。

エノクは、世から分離し、彼の多くの時間を祈りと神との親交に用いた。エノクは、終わりの時代に世から離れる神に忠実な人々を代表している。不義は、地上において恐ろしいほどまでにはびこる。人々は、彼らの墮落した心から生じる全ての想像に従い、彼らのだましごとの哲学を実践し、高い天の権威に対し反乱する。

神の民は、彼らのまわりにある不義の働きから分離し、神の聖なる姿が彼らの中に反映されるまで、思いの純粹さと神の意思との聖なる調和を求める。エノクのように、彼らは天へ移されるのに適した者となる。彼らは、世を指導し、警告しようと努力するにあたり、不信心者の習慣や精神と一致せず、むしろ聖なる対話と神の見本により彼らを譴責する。大洪水による世の破壊の直前の天へ移されたことは、火による地球の破壊の前にすべての正しい者が天へ移されることを表している。聖徒達は、彼らが忠実に神の正しい戒めに従ったことから、彼らを憎んだ者たちの目の前で祝福される。¹²

エノクは、聖なる人であった。彼は、専心神に仕えた。彼は、人類家族の墮落を認識し、彼自身をカインの子孫から引き離し、また彼らの重大な悪について彼らを非難した。地上には、神の存在を認め、彼をおそれ、彼に礼拝する者たちがいた。しかし、高潔なエノクは、神に従わない者の増加する悪をみて失望し、そのため彼は、日々かれらと交わることをさけた。なぜなら、彼は、彼らの不信心さから影響を受け、彼の高められた品性の土台となる彼の頭脳が聖なる尊敬をもって神を認識しなくなってしまうことを恐れたからである。彼らが神の権威を踏みにじることを見て、彼は日々、悩まされた。彼は、彼らから離れることを選び、彼の多くの時間を一人で過ごし、瞑想と祈りにその時間を費やした。彼は、神に仕え、彼のみ旨を実践することができるように、より完全に理解できることを祈った。¹³

キリストの再臨について他の者に教える

団体の働きをもって個人的な働きの代りにしようとする傾向がどこにでも見られる。人間の知恵には、団結し、一つに集結して大きな教会や機関を建設しようとする傾向がある。大勢の人が慈善事業を各種団体、機関に任せ、自分は社会との接触を避けるため、心はだんだんと冷えてくる。そういう人は自己に没頭し、感受性を失い、神と人々に対する愛が絶えてしまう。

キリストは従う者にそれぞれ働きを委任された。それは代理人ではできない働きである。病人や貧しい人々への奉仕、迷った人に福音を伝える仕事は委員会や組織だった慈善事業団体に任せておくべきではない。福音は個人的な責任、個人の努力、その人自身の犠牲を要求する。¹⁴

我々は日々、良い信仰の戦いをしなければならない。神は日々、我々になすべき仕事をお与えになる。我々は最初から結末を予測できるわけではないが日々、正義の道を歩んでいるかを吟味すべきである。我々は、キリストをながめながら、打ち勝つために努力しなければならない。なぜなら、すべての誘惑において、彼は勝利をもたらすために我々の側におられるからである。一日一日が、神の働きをなす特権を与えられた最後の日だとみなされるべきである。毎日多くの時間が祈りに費やされなければならない。こうして我々は、キリストの力の下で働くことができる。このような方法でエノクは神と歩んだのであった。義なる品性を表すことによって世に警告し、世の罪を責めたのであった。

我々は、キリストが間もなく地上に来られることを信じると公言する。厳格な責任が我々に課せられている。なぜなら、失われる世は、速やかな裁きについて警告を受けなければならないからである。我々は、その責任を放置してはならない。我々は、働きをする義務を負わなければならない。自我は忘れさらなければならない、キリストが現れなければならない。信仰深く、従順な子供として我々は光によって導かれ、その貴重な光を他の

者に反映させなければならない。ああ、全天が世の救いに興味があることを我々が認識できれば。我々は、イエスに従う者となるための聖なる熱意を呼び起こすべきである。……

キリストに従うと公言する者は、世への警告について責任を負う。我々にかせられた厳粛な働きを我々はいかになしているであろうか。我々は、神の御前にへりくだり、人間の考えに従ってはならない。我々は、世にでていき、神の言葉を語り、神が我々を世に遣わされたことを世に知らせなければならない。¹⁵

エノクから学ぶ

エノクは、預言の霊によって彼に明らかにされた全てのことを信仰深い方法で再現した。ある者は、彼の言葉を信じ、自分の悪から離れ、神をおそれ礼拝した。ある者は、たびたび彼の住まいをおとずれ、そのとき彼は、彼らを教え、また神がそのみ旨を彼らにお与えになるように祈った。その後、彼は、一定期間、隠居することを選んだ。これにより、彼は、人々が彼を見つけ彼の聖なる瞑想と神との交流が中断されることから逃れた。彼は、彼を愛し、彼の知恵の言葉を聞こうとする者により構成される社会から完全に離れることはしなかった。また彼は、自分を完全に墮落から切り離すことはしなかった。彼は、正しい者と悪しき者の両方に会い、神に従わない者が悪の道をはなれ神を畏れるようになるために働いた。また、彼は、神の知識をもつ者が、彼のためにより完全に奉仕しうるように教えた。彼の神との会話と聖なる見本によって彼らが益を受けうる間、彼は彼らと共にいた。その後一定期間、彼は社会から完全に離れ、あざける者、偶像礼拝から離れた。それは神との会話と、神のみが彼に与える聖なる知識のために飢え渴いて、一人であるためであった。

エノクが着実に主に従い、悪を憎み、神のみ旨をもっと完全になすために天の知識を熱心に求めたため、主はエノクを愛された。エノクは、彼が畏れ、崇敬し、あがめる神と彼自身がより完全に

結合することを熱望した。神は、エノクが他の人々と同じようなかたちで死ぬことを許されず、彼が死を見ることなく昇天するために天使をつかわされた。¹⁷

驚くべき結果

エノクによって説教されたメッセージと彼の昇天は、彼の時代に住んでいた人々に対する力強い論拠となった。これらのことは、義人は天へ移されることができることを示すのに、メトセラやノアが力強く用いることのできる論拠であった。

エノクと共に歩んだ神は、我々の主、救い主イエス・キリストであった。彼は、エノクの時代において世の光であったように、今もそうである。その時代に住んでいた人々に、命の道において彼らを導く教師がないわけではなかった。なぜなら、ノアやエノクがクリスチャンであったからである。福音はレビ記の規則の中に与えられている。当時と同じように、現代でも絶対的な服従が求められている。我々がこの言葉の重要性を理解することはいかに重要であろうか。

次のような質問がなされている。教会における欠乏の原因は何であろうか？その答えは、我々が、その思いをみ言葉から離してしまうことである。もし、神のみ言葉が魂の食物として食され、それが敬意と尊敬をもって扱われるならば、多くの繰り返されている証は必要なくなる。単純な聖書の宣言が受け入れられ、実行されるはずである。

その生きた原則は、国々をいやす命の木の葉である。……

サタンが我々に対し自分のほのめかしを押し付けるとき、我々がもし「主はこのようにいわれる」という言葉を心に抱いているならば、いと高きお方のかくまった部屋へ引き入れていただくことができる。

多くの者は、聖なる型に従うことができない。なぜなら彼らは、そのご品性の正確な特徴をほとんど学ばないからである。多くの者は、様々な計画のために忙しく、いつも活動的である。そこに

は、大切なイエスが近しい友人として近づくための時間がない。彼らは、全ての考えと行動において主を念頭におくことをせず、またそのような場面で、「これは主の道であろうか？」とたずねることをしない。もし、彼らがそのようにするならば、彼らは、エノクが行ったように神と共に歩むことができる。¹⁸

引用文献

1. ミストリー・オブ・ヒーリング 337
2. サインズ・オブ・タイムズ 1899 年 6 月 21 日
3. 同上 1899 年 7 月 4 日
4. 1-ス・インストラクター 1899 年 11 月 2 日
5. 教会への証 5 巻 241, 242
6. ビュー・アット・ハート 1891 年 8 月 18 日
7. 教会への証 5 巻 727, 728
8. サインズ・オブ・タイムズ 1897 年 10 月 21 日
9. SDAパブリック・コメント[E・G・ホワイト・コメント]1 巻 1088
10. 人類のあけぼの上巻 82, 83
11. サインズ・オブ・タイムズ 1879 年 2 月 20 日
12. 同上
13. 預言の賜物 3 巻 54
14. ミストリー・オブ・ヒーリング 119
15. ビュー・アット・ハート 1891 年 8 月 18 日
16. サインズ・オブ・タイムズ 1879 年 2 月 20 日
17. 霊的賜物 3 巻 57
18. 教会への証 6 巻 392, 393

アブラハム－信仰の父

安息日 2016 年 12 月 2 日

聖句と証の書の編集、R. C. ドウマゲットによるコメント付記

ある夜、家が火事にあい幼い男の子が屋根のう
えに逃げることを余儀なくされました。その子の
父親がその下の地上にたち、腕を伸ばしたうえで、
「飛び降りなさい。私が取ることができる」と彼
の息子に叫びました。彼は、その男の子が生き延
びるためには、飛び降りなければならないことを
知っていました。その男の子が見ることができた
のは、炎、煙、暗闇だけでした。想像しうよう
に、彼は屋根から飛び降りることが怖かったので
す。彼の父親は「飛び降りなさい。私がつかま
えるから」と叫び続けました。しかし、男の子はな
おも「お父さん、僕はお父さんが見えない」と言
いました。しかし、父親は「でも、私からは君が
見える」と返答しました。その男の子は飛び降り
ました。なぜなら、彼は父親を信じたからです。
そのように、クリスチャンの信仰は、我々が命に
向かい合うか、もしくは死に対面することを可能
にします。それは、我々が見えるからではなく、
むしろ確かに我々が見られているからです。これ
が信仰の意味です。信仰は、見えないものに関す
るものであり、むしろ手にしていない事柄に対す
る望みに関するものなのです。信仰は、単に理論
的に学べばよいというものではなく、それは生
活において実際に体験されなければなりません。
使徒パウロは、次のように説明しました。「神の
義は、その福音の中に啓示され、信仰に始まり信
仰に至らせる。これは、『信仰による義人は生き
る』と書いてあるとおりである」（ローマ人への
手紙 1:17）。

なぜ信仰により生きることがそれほど重要な
のでしょうか？勝利における信仰の役割は何でし
ょうか？使徒パウロは次のように宣言しました。
「なぜなら、全て神から生まれた者は、世に打ち

勝つからである。そして、わたしたちの信仰こそ、
世に勝たしめた勝利の力である」（ヨハネの第一
の手紙 5:4）。

「信仰によって、品性の欠陥がすべて補われる
のであり、すべての不潔なものがきよめられ、欠
点がなおされ、長所がのびされるのである。」¹

「悪に打ち勝つ働きは、信仰を通じてなされる。
戦場に向かう者は、完全な神の武具を身につけな
ければならないことを知る。その信仰の盾は、彼
らの防御となり、彼らを勝利者以上の者にさせ
る。」²

世に対する勝利を我々にもたらす信仰は、我々
の父アブラハムにより示されました。なぜ、ア
ブラハムは、信仰の父と呼ばれるのでしょうか？
我々が何らかの父という人について考える場合、
我々は何らかの発明者や何かに対し大きな前進を
もたらした人を思い浮かべます。ヒポクラテスは
医学の父とみなされており、エジソンは電気の父
であり、カール・ベンツは自動車の父である。ア
ブラハムについてはどうでしょうか？どのように
して彼は、信仰の父になったのでしょうか？我々
は、信仰を理解するためには彼の生活における経
験を知らなければなりません。もし、我々が世に
対する勝利をもたらす信仰をもちたいならば、
我々はアブラハムの信仰をもたなければなりません。

アブラハムの召し

我々は、創世記 12:1-3 において、アブラハムが
彼の父親の家から出ていくように召されたことを
確認することができます。「時に主はアブラハム
に言われた、『あなたは国を出て、親族に別れ、

父の家を離れ、わたしが示す地に行きなさい。わたしはあなたを大いなる国民とし、あなたを祝福し、あなたの名を大きくしよう。あなたは、祝福の基となるであろう。』あなたを祝福する者をわたしは祝福し、あなたをのろう者をわたしはのろう。地のすべてのやからは、あなたによって祝福される。」

カルデヤのウルは、異教の崇拜の中心地でした。その土地は肥沃であり、その場所はあらゆる富について有利でした。神がアブラハムに伝えたことは、端的にいうと次のようなものでした。「そこを出なさい。あなたが出発すれば、私があなたに与える土地をあなたに見せよう。」。このときのアブラハムの反応はどのようなものだったのでしょうか？アブラハムは、持ち回り品について荷造りを始めた。あなたは、このときの彼の家族の反応を想像できるでしょう。彼の親族は、次のように質問しただろう。「なぜあなたは、荷造りをしているのか？」、「私は、ここを去ります！」、「どこにいくのですか？」、「知りません！」、「あなたが行く土地について教えてください！」、「知りません！私が知っていることは、そこに行くことを神が望んでいるということだけです。そして、このお方は私と共にいてくださいます！」。このような返答について彼の親族はどのように感じたのでしょうか？もちろん、彼らは、彼を大変な愚か者だと思ったでしょう。しかし、彼にこのような異常な行動をとらせたのは何だったのでしょうか？使徒パウロは、次のように述べています。「信仰によって、アブラハムは、受け継ぐべき地に出て行けとの召しをこうむった時、それに従い、行く先を知らないで出て行った。」（ヘブル人への手紙 11:8）。

「アブラハムの質問しない従順は、全聖書を通じて見られる最も驚くべき信仰の例証の一つである。彼にとって、信仰とは、「望んでいる事がらを確信し、まだ見ていない事実を確認すること」であった（ヘブル 11:1）。彼は、神の約束の成就に対する外見上の何の保証もないまま、神の約束にた

よって、どこへ行くのかも知らずに、家や親族、故郷を捨てて神がお導きになる所に従おうとして出て行った。「信仰によって、他国にいるようにして約束の地に宿り、同じ約束を継ぐイサク、ヤコブと共に、幕屋に住んだ」（ヘブル 11:9）。

アブラハムに臨んだ試練は、決して軽いものではなく、彼に要求された犠牲は、小さくはなかった。アブラハムは、故郷、親族、家庭と、堅いきずなで結ばれていた。しかし、彼は、ためらうことなく召しに従った。彼は約束の地が肥沃であるか、健康的気候なのか、また、そこは快適な環境で、富を蓄積する機会があるかなどは聞かなかった。神がお語りになったのであるから、神のしもべは従わなければならなかった。彼にとって、この地上で最も幸福な場所は、神が彼にいらっしゃるようにお望みになるところであった。」³

なぜ、主は、彼の親族を離れ、彼が知らない地に行くことをアブラハムにお命じになったのでしょうか？預言の霊は次のように述べています。「神が、アブラハムを清いみことばの擁護者としての偉大な任務にふさわしい者とするためには、まず、アブラハムを、彼の青年時代の仲間から引き離さなければならなかった。親族や友人たちの感化は、主がそのしもべに与えようとされた訓練を妨げるおそれがあった。アブラハムは、特別の意味で神につながったのであるから、他国人の間に住まなければならなかった。彼の品性は、世とは全く異なり、特殊なものでなければならなかった。彼は、自分の行動を友人たちに理解してもらうように説明することもできなかった。霊のことは、霊によって理解される。そして、彼の動機と行動とは、偶像教徒の親族には理解されなかった。」⁴

信仰の旅

神の召しに従って、アブラハムは、彼の父であるテラが死ぬ時まで、ウルからハランに移り住みました。その後、聖なる声は、彼に前進するよう

命じ、彼とその家族は、「集めた財産の全てと、ハランでえた人々」（創世記 12:5）、すなわち、伝道の働きにより勝ち取られた魂を携えて出ていきました。

アブラハムは、どこに行っても主のための祭壇を建てました。例えば、彼の次の居住地であるベテルでもそのようにしました。彼は、南方へと旅を続けるにあたり干ばつに見舞われました。しかし、彼は、神意による導きを疑いませんでした。彼は、彼を取り巻く環境が自分のみ言葉への信仰を揺るがすことを許しませんでした。その後続く飢饉を避けるために彼は一時的にエジプトに避難しましたが、神が彼のために設定した目的地を忘れることはありませんでした。

祭壇を築く

彼が引っ越した後、アブラハムが残した祭壇は、生ける神への彼の信仰についての永続的な告白となりました。今日の神の残りの民の教会においてもまた、祈りの生活が見られなければなりません。「昔の父祖たちのように、神を愛すると告白するものは、どこに天幕を張っても、そこに主の祭壇を築かなければならない。すべての家が祈りの家でなければならない時があるとすれば、それは今である。父親も、母親も、自分たちと子供たちのために、けんそんに願いをなし、心を神にむけなければならぬ。父親は、家庭の祭司として、朝夕の犠牲を神の祭壇にささげ、妻と子供たちは、祈りと賛美に加わろう。イエスは、そうした家庭に喜んでとどまられる。」⁵

「どの家庭でも朝夕の礼拝の時間を定めるべきである。朝食をとる前に子供たちを集め、夜の守りを天父に感謝し、その日に助けと導きをとを神に願うことは、親にとってどんなにふさわしいことであろう。また、夜になって、もう一度神のみ前集まり、過ぎたその日の恵みを感謝することは、親と子にとってなんとふさわしいことであろう。

家庭礼拝は状況に左右されてはならない。時々祈り、しなければならない大きな仕事があると祈

ることを怠るようではいけない。そんなことをすると子供たちは、祈りはそれほど重要なことだとは思わなくなってしまう。祈りは神の子供らにとっては本当に大切なものである。そして感謝のささげ物が朝な夕な神のみ前にささげられねばならない。……

父母よ、仕事がどんなに忙しくても神の祭壇のまわりに家族を集めることをやめてはならない。家庭の中に聖天使の保護を求めなさい。愛する者が誘惑にさらされていることを記憶しなさい。」⁶

無我という遺産

アブラハムは、可能な限り早くエジプトを離れ、カナンに戻りました。カナンは、「家畜と金銀に非常に富んでいた」（創世記 13:2）。ロトはまだ、彼と一緒にいました。彼らは、彼らの家畜のための牧草地が十分でないことを認識していました。そのため、彼らの分離は不可欠でした。アブラハムは年上であり、また神から実際に召された者であつたにもかかわらず、どこに住みたいかについてロトに最初の選択権を与えました。

「アブラハムはロトに言った『わたしたちは身内のものです。わたしとあなたの間にも、あたしの牧者たちとあなたの牧者たちの間にも争いがないようにしましょう。全地はあなたの前にあるではありませんか。どうかわたしと別れてください。あなたが左にいけばわたしは右にいけます。あなたが右にいけば、わたしは左にいきましょう。』」（創世記 13:8, 9）。

「ここに、アブラハムの高潔、無我の精神があらわされた。これと同様の立場におかれたとき、なんと多くの人々が、自分の権利や優先権を主張してやまないことであろう。こうして、どれほど多くの家庭が破壊されたことであろう。どれほど多くの教会が分裂して、真理の働きが悪人たちの侮蔑と物笑いの種になったことであろう。……。だれにでも礼儀正しくすることを身につけ、人々からしてほしいと思うことを、喜んで人々にするならば、人生の不幸の半分はなくなってしまうこ

とであろう。自己誇張は、サタンの精神である。しかし、キリストの愛を心に持つものは、自分の利益を求めない愛をもつようになる。」⁷

この無我の精神は、ソドムの住人のためのアブラハムによるとりなしにおいてもまた、明らかにされました。

アブラハムの失敗

信仰深い者の父となる前に、アブラハムは神の前を先走ることによる重大な失敗を犯しました。彼は、彼の子孫が偉大な国民になるという約束の実現にあたり、彼とその妻が「助ける」ことができると考えました。彼らはすでに年老いていたため、アブラハムがサラの召使であるハガルが彼の子供を産むことについて彼らは合意しました。この失敗は、彼の家族内に大きな問題を引き起こしました。

実現された神の約束



最終的には、サラは子を産むことができる年齢を超えており、またアブラハムも年老いていたにもかかわらず、神の御約束どおり、彼らの奇跡の息子が生まれました。アブラハムがその子孫に与えた最も重要な救いの遺産は、彼が奇跡の子供であるイサクを神に捧げようとしたという信仰深い行為でした。「信仰によって、アブラハムは、試練を受けたとき、イサクをささげた。すなわち、約束を受けていた彼が、そのひとり子をささげたのである。この子については、『イサクから出る者が、あなたの子孫と呼ばれるであろう』と言われていたのであった。彼は、神が死人の中から人をよみがえらせる力がある、と信じていたのである。だから彼は、いわば、イサクを生きかえして渡されたわけである」（ヘブル 11:17-19）。

「命令は、父親の胸をしめつけるような言葉で表現された。『あなたの子、あなたの愛するひとり子イサクを連れて……彼を燔祭としてささげなさい』（創世記 22:2）。イサクは、彼の家庭の光であり、彼の老年の慰めであった。そして、他の何よりもたいせつなことは、彼が、約束された祝福の世継ぎであることであった。こうしたむすこを、事故または病気で失うことは、慈愛深い父親にとって胸のはりさける思いであろう。それは、彼の白髪を悲嘆に暮れさせたことでであろう。しかし、自分自身の手で、自分の子の血を流すように彼は命じられた。それは恐ろしい不可能な事のように思われた。」⁸

多くの苦しい祈りののち、アブラハムは、神の使命を遂行するため、彼の愛する息子と共にその山への3日間の旅を開始しました。

彼らが山頂へと近づくにあたり、イサクは、「『父よ、……火とたきぎとはありますが、燔祭の小羊はどこにありますか』とたずねた。ああ、これはなんという試練であったことだろう。『父よ』という愛のこもった言葉が、どんなにアブラハムの心を刺したことでであろう。まだ知らせることはできなかった。『子よ、神みずから燔祭の小羊を備えてくださるであろう』（創世記22:7、

8)。

彼らは、定められた場所で祭壇を築き、その上にたきぎを置いた。そして、アブラハムは震える声で天からの言葉をむすこに知らせた。イサクは、自分の運命を知って恐れ驚いたけれども、さからわなかった。彼は逃げようと思えば、彼の運命から逃げることはできた。悲しみに打ちひしがれた老人は、恐ろしい三日間の苦悩に力がついていて、元気な若者の意志に逆らうことはできなかったことであろう。しかし、イサクは幼いときから、すぐに信頼して服従することを学んでいたから、神のみこころが知らされたとき、彼は喜んで従った。彼はアブラハムと同じ信仰を持っていたから、自分の生命を神の供え物としてささげる召しを受けたことを名誉に感じた。イサクは、父をいたわり、悲しみを軽くしようと努めた。そして、父の弱々しい手を助けて、綱で自分を祭壇に結びつけるのであった。

いよいよ最後の愛の言葉が語られ、最後の涙が流され、最後の抱擁が終わった。父は、むすこを殺そうと、刃物をふり上げた。すると突然、彼の手はとどめられた。神のみ使いが天から彼を、『アブラハムよ、アブラハムよ』と呼んだ。彼は直ちに『はい、ここにおります』と答えた。すると声がふたたび聞こえた。『わらべを手にかけてはならない。また何も彼にしてはならない。あなたの子、あなたのひとり子をさえ、わたしのために惜しまないので、あなたが神を恐れる者であることをわたしは今知った』（創世記22:11, 12）。

そのとき、アブラハムは、『角をやぶに掛けている一頭の雄羊』を発見し、急いで新しい犠牲を捕え、『その子のかわりに』ささげた。アブラハムは、喜びと感謝にあふれて、その清い場所をアドナイ・エレ（主は備えられる）と新しく名づけた（創世記 22:13, 14）。⁹

アブラハムの生涯から学ぶべき教訓

1. 質問しない従順

「アブラハムの絶対服従（質問しない従順）は、全聖書を通じて見られる最も驚くべき信仰の例証の一つである。」¹⁰

「アブラハムのように、今日も、なお、多くの人々が試みを受ける。……富と栄誉を約束する職業を捨てて、気の合った有益な仲間を離れ、親族と別れ、克己と困難と犠牲だけを要求するようになる道に進むように要求されるであろう。神は、彼らに仕事をさせようとしておられる。」¹¹

2. 祈りの生活

「神の友であるアブラハムの生活は、祈りの生活であった……父親と母親は、毎朝、毎夕、その子供たちを自分の周りにあつめ、へりくだった嘆願により神の助けを求めるべきである。あなたが愛する者は、誘惑や試練にさらされる。日々の煩わしさが、若者や高齢の者の道を悩ます。忍耐強く、愛し、喜びにあふれる生活をおくる者たちは、祈らなければならない。固い、不動の目的、継続的な注意深さ、神からの継続的な助けのみにより勝利を得ることができる。」¹²

3. 彼の気高い無我の精神

アブラハムの口トに対する模範的な態度を思い出すべきである。「おのおの、自分のことばかりでなく、他人のことと考えなさい。（ピリピへの手紙 2:4）」。

4. 滅びつつある魂への愛

アブラハムは、ソドムの罪を忌み嫌ったにもかかわらず、「罪人が救われることを願った。アブラハムがソドムのために抱いた深い関心は、われわれが悔い改めていない人々に対して感じなければならない切実な思いを示している。われわれは、罪を憎まなければならないが、罪人には、あわれみと愛を持たなければならない。われわれの回りには、ソドムにのぞんだのと同じように、希望なく恐ろしい破滅に陥っている魂がある。毎日、だれかの恵みの期間が閉じている。毎時間、だれかが恵みのとどかないところへ移っていく。それなのに、恐ろしい運命をさけるように罪人に訴え、

警告する声はどこにあるのだろうか。罪人を死から引き返すためにどこに救いの手がさしのべられているだろうか。けんそんに、しかも忍耐強い信仰をもって、罪人のためにとりなす人はどこにあるだろうか。」¹³

5. 自分の家をよく治めた父親

「この忠実な父祖アブラハムについて、神ご自身このようにあかしされた。『アブラハムがわたしの言葉にしたがってわたしのさとしと、いましめと、さだめと、おきてとを守った』。また、「わたしは彼が後の子らと家族とに命じて主の道を守らせ、正義と公道とを行わせるために彼を知ったのである。これは主がかつてアブラハムについて言った事を彼の上に臨ませるためである』（創世記 26:25、18:19）……。アブラハムの側においては、利己的目的のために、真理を裏切ることにはなかった。」¹⁴

6. 働いた信仰

神が、そのイスラエル民族の祖先に対しその一人子を捧げるよう命じたとき、彼は信仰により従った。

7. 全宇宙に対する告白

「アブラハムに要求された犠牲は、彼自身のためとその後の子孫のためばかりではなく、天と他の諸世界の罪のない者たちの教訓のためでもあった。キリストとサタンとの争闘の場、すなわち、贖罪の計画が行なわれるところは、宇宙の教科書である。……

天の指揮者、神のみ子が、罪人のために死ぬ必要があるという贖罪の神秘は、天使でさえも理解に苦しんだ。アブラハムに、その子をささげよという命令が与えられたときに、全天の関心がそれに注がれた。彼らは、緊張して、この命令が実行される段階を見守った。『燔祭の小羊はどこにありますか』とイサクがたずねたとき、アブラハムは、『神みずから燔祭の小羊を備えてくださるであろう』と答えた。父が今にもむすこを殺そうとしたとき、彼の手がとめられて、神が備えられた雄羊

がイサクに代わってささげられたときに、贖罪の神秘が明らかに照らし出されて、人類のための神の驚くべき準備が、天使たちにさえ明瞭に理解されたのである。」¹⁵

引用文献

2. 患難から栄光へ上巻 267
3. 両親、教師、生徒への勧告 182, 183
4. 人類のあけぼの上巻 122, 124
5. 同上 122
6. 同上 148
7. 家庭の教育 565, 566
8. 人類のあけぼの上巻 132
9. 同上 154
10. 同上 158
11. 同上 122
12. 同上 124
13. 今日のわたしの生涯 35.
14. 人類のあけぼの上巻 142, 143
15. 同上 143, 144
16. 同上 161, 162

ヨセフ－忠実な青年

日曜日 2016 年 12 月 4 日

エリ・テノリオ・ダ・シルバ著

彼の父の家で

ヨセフについてのお話は、我々が聖書において読むことができるもののうち、もっともドラマチックで冒険的なものです。彼の家族は、多くの面において機能不全に陥っていました。彼は、その母ラケルと、またその父ヤコブからとても愛されました。しかし、彼は兄弟から嫉妬され、また憎まれました。

ヤコブの罪は許されていました。ずるがしこさ、裏切り、偽り、また彼の他の卑しい性質は、彼の父と祖父の信仰がヤコブの生活において現れるまで、人生という炉の中で焼き尽くされていました。しかし、彼の罪と一夫多妻の悪の結果が彼の家庭におよび、苦々しい実をもたらした。彼の妻たちは嫉妬心にまみれ、彼の息子たちは口論好きで、忍耐力がなく、自制心を欠いていました。これらの結果は、ヤコブを悲しませ、また彼に悲しみと苦しみをもたらしました。

その後、ヨセフが生まれました。彼は、その高齢のイスラエルの祖先の心を慰める香油、すなわち彼を安らかにし、また活気づける天からの賜物として生まれました。彼はその兄弟たちとは違っていました。「彼のまれに見る容貌の美は、彼の精神と心の内面的美の反映であった。……。後年エジプトに行ったとき、彼のうちに著しくあらわれた柔和、忠誠、誠実などの特性が、すでに彼の日常生活のなかに見られた。」¹

ヨセフは信仰深く、優しくまた彼の家庭についてよく配慮しました。また、この信仰深さは、彼

が偉大な任務のために準備する際に手助けとなりました。

奴隷として売られる

ヨセフの兄弟は数か月間、その家を留守にしていました。自分達の家畜用に十分な牧草を確保するため、彼らは遠い地を訪れていました。ヤコブは息子達がいらないのをさびしく思い、彼らを見つけ、彼らが無事に過ごしているという知らせを自分に伝えさせるためにヨセフを送り出しました。

ヨセフは、喜んで彼の父親に従い、その家から出発しました。

夢を通して神は、ヨセフが成功し、かつ反映することを彼に伝えました。彼の未来は、輝かしいものでした。しかし、神は現在と未来との間に何が起きるかについては、ヨセフに示されませんでした。

65 マイルの距離を旅した後、ヨセフは遂に彼の兄弟を見つけました。彼は嬉しく、また彼らに会うことができたその機会を喜びました。彼の兄弟たちが不親切であったにもかかわらず、ヨセフはなお彼らを愛しました。

ヨセフの優しさと愛は、その兄弟たちからの憎しみをもって報いられました。彼は、恐ろしい意図が現れている彼らの復讐心にみちた視線、怒り、あざけり、脅しに恐怖を感じました。折に触れ、彼の正しい生活から放たれる光は悔い改めていない者をいらだたせるのでした。

ヨセフの兄弟たちは、彼を殺したいと思いました。彼らは彼を捕らえ、彼から上着をはぎ取り、深い穴の中に荒々しく投げ入れました。彼が彼らのために運んできた食物を座って食べている間、ヨセフは飢え死にさせるために穴の中に取り残され、そこで苦悩しました。

しかし、神のみ摂理により、彼の命は救われました。「やがて旅人の一団が近づいてくるのが見えた。それはヨルダンの向こうのイシマエルの隊商で、香料その他の商品を持ってエジプトへ行く途中であった。ユダは、兄弟を穴の中においたまま死なせるよりは、異邦の商人に売ろうと言い出した。そうすれば、彼を都合よく追放することができて、殺さないですむ。……他の者もみなこれに賛成したので、ヨセフは急いで穴から引き上げられた。

ヨセフは、隊商を見るとすぐに恐ろしい自分の運命に気づいた。奴隷になることは死ぬよりも恐ろしい運命であった。恐ろしさのあまり、泣き叫んで、兄弟たちひとりびとりにすがって頼んだがなんの役にも立たなかった。」²

軽蔑され、誤解され、不当な扱いをうけるといつても心が痛みますが、あなたが愛する者から軽蔑され、不当な扱いを受けると、更に心が痛むものです！

それは、エジプトへの長い旅でした。たった一人で、彼の住まいと、彼が愛する者、また彼を愛する者から遠く離れて彼は次のように疑問に思ったに違いありません。「私の夢の中で神がわたしに与えた夢はどこにいったのであろうか？」「神は、そのお考えを変えたのだろうか？」。その旅の間、彼らはカナンカナンの近くを通り、彼は彼の父が暮らしている丘を遠くから見ることができました。恐ろしい思いや絶望が彼を襲いました。彼は、再び父をみることができのでしょうか？彼は、奴隷の苦しい生活をおくることへの準備ができていないと感じました。

「そのとき彼は、父の神のことを考えた。彼は幼いときから、神を愛し恐れることを教えられて

いた。彼は父の天幕の中で、ヤコブが逃亡者となって家を脱出したときに見た幻の話をよく聞いたものであった。彼はヤコブに与えられた主の約束とそれが成就した方法、すなわち、父が最も必要に迫られたときに、神の天使が現われて彼を教え、慰め、保護したことを教えられていた。また、彼は、人間のために贖い主を与えられた神の愛について学んでいた。彼は今、こうした尊い教訓をまざまざと思い出した。ヨセフは、先祖の神が自分の神であることを信じた。彼はその時その場所で自分を全く主にささげ、イスラエルを守るものが、流浪の地で彼と共にいてくださるように祈った。」³

生涯においては、予想外のことが起きます。その予想外の出来事は、理屈によって説明することはできず、人の頭脳が理解することはできません。説明不可能な出来事が生じた場合、我々は自身を完全に神に明け渡すか、あるいは神に反逆することもできます。どの選択をするかは我々次第です。

私は以前、ある高齢の牧師と働いたことがあります。彼は私に、線路上でよく自分の父親と働いていた8歳の男の子についての話をしてくれました。その息子は、父親を愛しており、喜んで躊躇なく彼に従うことを身につけていました。ある日、その男の子と父親は、線路上で働いていました。彼らは仕事に集中し、電車が速いスピードで彼らに近づいていることに気づきませんでした。線路上の人は、しばしば電車が近づいていることになかなか気づきません。なぜなら、電車の音は横の方向に広がるからです。その父親と息子はそのような状況にありました。父親が振り向き、電車をみたとき、それは息子に急速に近づいていました。父親が息子の場所にいく時間はありませんでした。そこで父親は、「地面のうえにひれ伏し、動くな！」と叫んだ。その息子は、振り向かず、理解するために立ち止まろうともせず、直ちに従いました。電車は、息子の上を通り過ぎ、彼はかすり傷ひとつ負いませんでした。彼は救われました。

理解さえしていませんでしたが、信頼し、従うことにより救われたのです。

ヨセフの場合、彼はまだなぜそのような試練が彼に及ぶのかに気づいていませんでした。しかし、とにかく彼は苦悩の学校を通らなければなりませんでした。それは、大いに有用性を増し加え、彼の生活のための神の計画を実現するためでした。

ヨセフは、結局のところ人間でした。彼は、今日のあなたや私と同様に罪の傾向を有していました。彼には欠点があり、それは直されるべきでした。家庭において、彼は父親の保護の下にあり、彼は人に尽くすことよりも尽くされることになっていました。彼は、肉の腕に信頼するのではなく、信仰により見えないお方の手を見てつかむことを学ばなければなりませんでした。ヨセフは、試練が先に来て、その後王冠を受けるということを学んでいたのです。

エジプトで試される

エジプトに着いた後、ヨセフは奴隷として売られました。彼は、パロを護衛する人の長であるポテパルに仕えました。

ヨセフは 10 年間、ポテパルに仕えました。ヨセフに委ねられたものはみな繁栄しました。そのため、ポテパルは、神がヨセフと共におられることを理解しました。

ヨセフは成功者となりましたが、聖書は彼の成功の秘訣を教えています。「主がヨセフと共におられたので、彼は幸運な者となり、その主人エジプトびとの家におった」（創世記 39:2）。

ヨセフは、成功のために働き、神は彼の努力を祝福されました。特権により甘やかされた彼の性質はすでになくなっていました。彼は、直接的な奇跡により繁栄することに期待をしませんでした。彼は、直接的な努力なしに成功を得ることはできないことを知っていました。彼は信仰深く働き、すべての心と力により神に栄光を帰し、他の者を祝福しました。彼の努力が繁栄を伴ったとき、彼は彼の成功を神に帰しました。

農場で仕事を探していたある若者の話があります。彼が農場主との面接をしている時に、農場主は、彼の能力について質問をしたところ、その若者は「私は、嵐の夜でも寝ることができます。」と答えた。農場主はその意味を理解せず、彼に再度、「あなたの能力は何ですか？」と尋ねた。その答えは同じで、「私は、嵐の夜でも寝ることができます。」というものだった。

他に選択肢がなかったため、農場主は、心配しながらもその若者を雇いました。その若者が働き始めた後、彼の不安は静まりました。農場主は、彼が誠実な働き者であることに気づきました。農場主は、その若者を大変気に入って、若者の「理解しがたい答え」をほとんど忘れていました。ある夜、農場主と彼の妻は、近づいている嵐の風によって夜中に起こされた。

農場主は、その若者の部屋に行き、農場が嵐にたえられるようにするための準備をするために彼を起こそうとしました。彼は、その部屋のドアを何回もノックしました。しかし、その若者は、起きませんでした。農場主は激怒し、翌朝、彼を解雇しようとしていました。「私が彼を最も必要としている時に彼が私を助けるために起きないのであれば、彼は何の役にたつのであろうか？」と彼は思いました。農場主は耕運機にカバーをかけるために外に出ましたが、耕運機にはすでにカバーがかけられていました。彼は家畜を彼らの部屋に入れるために出ていきましたが、その家畜たちはすでに、平安のうちにその部屋の中にいました。彼が嵐のための備えとして必要だと考えていたことの全ては、すでになされていました。そのとき、彼は若者が述べた「私は、嵐の夜でも寝ることができます。」という言葉の意味を思い出し、理解しました。

ヨセフは、そのような人でした。彼は、その義務を忠実に果たし、また安らかに休むことができました。彼は、あらゆる種類の誘惑にかこまれていましたが、神に対して忠実でなければならないと

いう彼の義務から彼を引き離す世のみせびらかしによる影響を受けませんでした。

このような態度により、ポテパルは、ヨセフを奴隷というよりも息子のように接するようになった。彼は今、その国において最も地位の高い人々とつながるようになりました。彼は、その当時に最も近代化された国の偶像礼拝、見せびらかし、富、文化にかこまれていました。しかし、彼は彼の宗教について恥ずかしく思うことはありませんでした。彼は、すべて自分のなしたことに、自分が神の僕であることを明らかにしました。

靈感は、ヨセフがハンサムな若者であったことにふれている。彼の外観はその後、彼の主人の妻の注目を引き付けました。彼女は、彼が神の律法を犯すように誘いました。彼は、彼女の誘いを拒絶し、または受け入れた場合に生じる結果を理解していました。もし彼が受け入れるならば、彼女は彼を守り、その家庭における地位を確実なものにしたでしょう。彼が拒絶したならば、彼女は彼の生活をみじめなものにするでしょう。「彼はこれまで、異教国にみなぎっていた腐敗に染まらずにいた。しかし、突然、強く、魅惑的に迫ったこの誘惑に、彼はどうしたらよいであろうか。」⁴

このような時、天使達がそのような苦悩を理解し、苦悩のなかにいる我々に同情するということを知ることは慰めです。歴史におけるこの一場面が明らかにされたとき、靈感は次のように述べた。天使達は強い関心をもってこの場面を見ていた。

「天使たちは、言葉にあらわせない不安をいだいて、この光景をながめた。」⁵

「彼の将来の人生のすべてがこの一瞬の決断にかかっていた。原則が勝利するであろうか。ヨセフはそれでもなお神に忠誠を尽くすであろうか。（創世記 39:9）」⁶

このようなもっとも厳しい誘惑に直面したとき、ヨセフは都合に合わせた選択をせず、むしろ彼が数年前に家庭から最初に引き離されたときに心に

抱いた決心にかたく従いました。彼は、彼の信仰と彼が仕える神に従いました。彼の主人の妻に対する彼の答えは、「どうしてわたしはこの大きな悪をおこなって、神に罪を犯すことができるでしょう」というものでした（創世記 39:9）。

彼の生活環境が彼をかたどっていたかたわら、ヨセフは同時に忠実さを貫くために積極的な選択をしなければなりません。誘惑を遠ざけることは、聖書の中の英雄にとってさえ容易ではありません。しかし、今日われわれに与えられるものと同じ力により、ヨセフは悪を避けることができた。

神は、我々が彼の側に強く立つための準備をさせたいと願っておられる。しかし、その時がきたとき、我々は、この世の状況に関わらず、自分で選択をし、それに基づいて行動しなければなりません。

ヨセフは、彼の創造主に対する罪への誘惑を拒絶しました。その後、彼の外観にひき付けられた女性の憎しみが生じました。彼女は、彼の内面の美しさを見ることも評価することもできませんでした。

ヨセフは、その忠実さの結果、牢獄に入れられ、彼の看守は、彼を非常に厳しく扱いました。しかし、主はヨセフと共にいて、彼の品性は、地下牢においてさえ輝きました。

囚人から統治者へ

ヨセフは、囚人としての卑しい仕事をするなかにおいても、忠実であり続けました。そして神は、彼の生活において働き続けられました。

み摂理により、ヨセフはパロの前に出ました。パロは、まもなく生じる干ばつと飢餓からエジプトを救うことができるのはヨセフだけであることを理解しました。ヨセフは、エジプトの統治者かつ救済者となり、またエジプトだけでなく、その地域を襲った干ばつにより滅びそうになった周辺の国の人々の救済者となりました。

エジプトの統治者として、ヨセフはパロに次ぐ二番目の地位にいました。しかし、彼は、依然として優しく誠実で、あらゆることにおいて第一に神に忠実であり、次いでパロに対して忠実でした。

自分に与えられた力を用いれば、ヨセフは彼の兄弟たちに対してもポテパルの悪い妻に対しても容易に復讐することができました。しかし、彼はそうしませんでした。なぜなら、彼は彼を愛さない者を依然として愛していたからです。彼の兄弟たちを処罰する代わりに、彼は同情心を表し、彼らを守り、歓迎し、もてなしました。

ヨセフの生活から学ぶ教訓:

小さいことの重要性:

ヨセフは、小さい義務や彼を取り巻く人々への態度において忠実でした。彼は、歩むときに、神の御前に歩んでいることを知って歩んでいました。小さいことにおける忠実さは、彼の成功のための準備となりました。彼は、神と人から愛されました。

「人生は、大きな犠牲やりっぱな功績によってではなく、おもに小さいことから成り立っている。全く注目する価値がないように見える小さいことによって、わたしたちの生涯に大きな利害が及ぼされることがきわめて多い。……日常生活における試練の中で原則を実行しなければ、最も危険で困難な立場に立ったとき、堅く忠実に立つ力を自分のものとすることができない。」⁷

忍耐:

神はその知恵により、ヨセフが直面することになる試練を彼に示されず、栄光に満ちた日々についてのご自分の約束を見るまでに彼を長年待たせられました。

「あなたがたも、主の来臨が近づいているから、耐え忍びなさい。心を強くしていなさい。（ヤコブの手紙 5:8）」。

「忍耐は勇気と同様、勝利するものである。試練の時に忍耐強いことは、事業をなすときの大胆

さと同じほど、魂をキリストに導くことができる。死別や苦しみの時に忍耐と快活さをあらわし、平安で穏やかなゆるがない信仰をもって、死そのものにさえも向かうクリスチャンは、忠実に働いて長い一生になし遂げることができる以上のことを、福音のためにすることができる。」⁸

自己否定:

彼が愛する神に対し忠実であるために、ヨセフは自己を否定し、ポテパルの妻の恩寵と情欲を得る機会を拒否しましたが、この時、彼は、彼の忠実さが迫害と苦しみしかもたらさないことを知っていました。

「われわれは、正しいことを、それが正しいことであるがゆえに選び、結果は 神にゆだねなければならない。」⁹

「キリストとキリストの自己否定、犠牲を分かち合う者だけが、彼と共に彼の栄光を分かち合うことができる。」¹⁰

自己否定とは、あなたの傾向があなたに行わせようとする悪をしないことです。それは、言葉や行動において復讐をする誘惑を拒絶することです。他の者への批判を控えることです。うっとうしく耐えがたい行動をする者に忍耐強く接することです。また、他の者がしようとしないうつらい仕事をすることです。これらは賞賛をえるためや、単なる義務として行うべきではなく、神があなたに不動の忠実さをもってそうしてほしいと望んでおられるからです。自己否定とは、肉が自分自身に仕えようともがくときに、他の者の利益のために仕えることです。

愛:

ヨセフは、キリストの象徴でした。彼は、愛される資格のない者、彼を軽蔑し拒絶した者を愛しました。自分を不当に扱った者を許し、救う力を彼に与えたのは、愛でした。

ヨセフは、イエスの愛を経験しました。そして彼は生命の泉となり、イエスの愛を分かちあう者となりました。

我々は自分が愛され、神に許されたことを知った時にのみ、愛し、許すことができます。

結論

神は我々の限界をもって働くことがおできになり、また神は我々の弱点を正すことがおできになります。

ヨセフは弱点があったにもかかわらず、勝利者となりました。この忠実な若者は、神の御手の中に自分自身をおき、神に自分の生活を導いていただく決心をしました。

あなたは、時にあなたのための神のご計画について確信がないでしょうか？我々は神のご計画の全てを理解する必要はありませんし、このお方のみ思いや方法は我々の思いや方法より高いため、そうすることさえできません。

しかし、あなた自身にゆだねられていることがあります。それは、状況に関わらず、神に忠実であることを決心すること、そして、いつもこのお方に信頼し、このお方があなたを許し、あなたの重大な欠点を直すことがおできになると信じることです。

誘惑を拒絶することにおいてヨセフが行ったことはみな、彼と神で共同でなされた努力でした。彼は、自分がおかれた環境の下で、神に信頼するように訓練されていました。しかし、彼は同時に、誘惑に対してノーということを個人的に選んだのでした。それは、彼だけで行いうるものではありませんでした。神は、我々が神の側に堅く立つための準備をしてくださいますが、それでもなお我々は行動を起こさなければなりません。我々は選択をし、それに従って行動しなければなりません。それは、ヨセフにとって容易なことではありませんでした。それは、我々にとっても容易ではありません。物語のかたちできれいにまとめられると、単純にみえますが、実際にはそうではありませんでした。

エジプトでは、若者は好色やあらゆる種類の世の快樂を「楽しんで」いました。彼は、どこに立

つかについて選択をしなければなりませんでした。彼は、彼らと異なる者となることを選びました。彼の言葉は異なり、彼のふるまい、食事、衣服、彼が礼拝する日は、すべて異なっていました。そして、人々が常にこの違いを歓迎していたわけではありませんでしたが、彼は、それを恥だとは思いませんでした。キリストは、ヨセフの人生を通じて彼らに対して光を与えておられました。

あなたは、ヨセフと同様に他の者から異なっているでしょうか？イエスは、あなたを通じて光を与えておられるでしょうか？あなたは、忠実な勝利の生活を送っているでしょうか？

我々は、キリストの生き方と同じ生き方をする力を必要としています。彼は「あなたは力を受ける」と約束されました。我々は、罪との戦いに勝利し、利己心と無関心の固い壁を壊し、また人の心をとらえて変えるためにイエスが必要です。

イエスが、ヨセフの生活においてご臨在してくださったときと同じように、私とあなたの生活においても実際にご臨在してくださいように。彼は、まもなく来られ、我々をその家に連れていかれます。今は、輝く時です！

引用文献

1. 人類のあけぼの上巻 228
2. 同上 232
3. 同上 235
4. 同上 237
5. 同上
6. 同上
7. ミストリー・オブ・ヒーリング 475
8. 患難から栄光へ下巻 157
9. 各時代の大争闘下巻 185
10. セレブリティ・メッセージ 2 巻 216

モーセー優しくへりくだった指導者

水曜日, 2016 年 12 月 7 日

L. トウドロイウ著

賜物

モーセの話は、世界中にめぐり、多くの世代と文化において、その話は賞賛され、尊敬されています。「モーセ」は、有名な救出者として偉大であったことから、その名前を聞くと、ユダヤ人社会全体が誇りに満ち、また非常に喜びます。しかし、この世がモーセについて知っていることやユダヤ人の言い伝えがこの偉大な神の人について強調することよりも、人々の心に本当に残ることは、子供たちが思い出す美しい聖書のお話ー泣いている小さい赤ん坊のモーセが小さいかごの中にいたときの話です。

イスラエルの神は、400 年もの間にわたる奴隷生活の下でしいたげられたご自分の民を注意深く見守っておられました。今や、時の創始者は、預言を成就させし、「モーセ」と呼ばれる賜物を通して、ご自分の民を救う準備ができていました。

策略

パロの欲望、憎しみ、個人的な願望が頂点に達したときに、モーセは登場しました。モーセは、「誇りによって汚染された」エジプトの帝国に対する神の応答でした。エジプト人のパロは、ヨセフの神がエジプトの人全てを救ったということに関するエジプト人の記憶が、ヨセフの死によって消え去ることを望んでいました。しかし、我々は、エジプト人の監督者がヘブル人をしいたげればしいたげるほど、「ヘブル人がいよいよふえひろが」ったということを読み取ることができます（出エジプト記 1:12）。

様々な王や皇帝のもとで神の教会を代表する人々が最も恐ろしい迫害を受けたとき、彼らの数は減るのではなくむしろ増加しました。そのため、神の愛は、非常に多くの人々の心にまで広がりましたーこうして同様に、モーセの神は、未来の世代における多くの信者の神となりました。

神のみ摂理

多くの人々にとって、モーセは誤った時代に誤った場所で生まれたように見えました。しかし、天の神は、そのご目的や意図をだれにも説明する必要がありません。そのため、そのような状況において、モーセの両親ーアムラムとヨケベテーの信仰が強まり、主は彼らの勇気に報いられました。ヨケベテの信仰は、人間による理論を超えており、とても重要な任務をはたす子供を守るために神の天使がつかわされた。その子供を破滅させるための法律が、**み摂理**によって覆されました。

エジプトの市民

パルピスの小さいかごがナイル川に浮かんでいたとき、その大河の流れや風は、神のみ旨に従い、それをパロの娘が身を洗う場所へと運びました。最初、彼女は驚きました。しかし、彼女がその小さいかごを開けたとき、最も無力な存在を発見し、小さい子供の姿を見て彼女の心は深く穏やかな影響を受けました。今や、モーセは家庭と「母親」をもつことになりました。そして、この時以降、エジプトは将来を得たのでした。この章における英雄は、ヨケベテでした。彼女は、本当の母親であり、人類が受けうる最高の教育をその赤ん坊に施しました。ヨケベテは、時間と戦う母

親でした。その時代の人々が直面しうる試験のうち、もっとも困難な試験に自分の息子が直面しなければならぬ痛ましい瞬間まで、彼女は、毎秒を用い、毎日を数え、夜の時間を惜しんだのでした。

パロの孫、王権への跡継ぎとして養子になった後、モーセは、最も高度な軍事、および民間の訓練を受けました。彼は将軍としての軍人でした。最終的に、彼は国家の誇りの象徴となりました。人間の目が想像しうるもののうち最も偉大な光景がモーセの前に現れました。世界の注目、豪華な楽しみが彼の足元にあり、彼の感情や彼の「自我」を満たそうとしていました。彼は、墮落するのでしょうか、それとも彼の「最初のアラブ」、彼の少年時代の神のために固く立つのでしょうか？

「モーセは、地上の偉大な人物の中で傑出した者となり、地上の最も華麗な王国の宮殿の中でも一段と輝き、王国の権力を示す笏を持って支配するのにふさわしい者であった。……**歴史家、詩人、哲学者、軍隊の指揮官、また、立法官として彼と並び得る者はなかった。**しかし、彼は、こうした世界を前において、「罪のはかない歓楽にふけるよりは、むしろ神の民と共に虐待されることを選び」、**富、偉大さ、名誉などを得ることができる有望な将来を断固として拒む道徳的能力をもっていた**（ヘブル 11:25）。」¹

正義という名の下で

エジプトの世界が、この帝国の将来を守るために必要な変化を見る用意ができたちょうどそのときに、モーセは、許されない行為を犯し、国家の裏切り者となりました。

「モーセは、エジプト人を殺したとき、父祖たちがくりかえして犯したと同様に、神がご自身でなしとげると約束されたことがらを自分の手で実現しようとする同じあやまちを犯した。モーセが考えたように、戦争によって民族を解放しようすることは、神のみこころではなかった。それは、

神だけに栄光を帰すようになるために、神の大きな力によって実現するはずであった。しかしこうした性急なモーセの行動も、神の目的達成のために神が支配しておられたのである。モーセは、まだ、この大いなる仕事に当たる備えができていなかった。」²

多くの人々の目から見た場合、人間の理論や道徳に基づいて、モーセの行為は合法でした。人間による解決は、神による解決よりもしばしば人気があります。なぜなら、それらは、人間にとって都合がよく、誤って導かれた人間の傾向に適合するからです。

「エジプト人を殺すというモーセの性急な行為は、**僭越な精神**によって引き起こされた。信仰は、神の力と知恵において働くのであり、人間の方法の下で働くのではない。」³

なんと多くの人々が、神の名または正義の名において殺され、拷問され、迫害され、国外へ追放されたのでしょうか？それと同じように、我々が自分の信仰や神への服従を奪う傾向にある同様な感情に満たされるときはいつでも、我々は社会的、宗教的、法的な状況において、同様な態度をとりがちです。パロになることになっていたモーセは、剣の人であり、生まれ変わらなければならなりませんでした。彼はその準備ができていませんでした。救出者となるべきものは最初、自分自身の中にある憎しみから救い出されなければなりません。長い期間を経て築かれたエジプトのくびきへの憎しみを切り離すため、霊的な「手術」が必要でした。モーセは、新しい心と新しい精神が必要でした。

火

「エジプトにおいて〔モーセ〕を囲んでいた環境、たとえば、養母の愛情、国王の孫という高い身分、いたるところに見られる浪費、教養の高さ、鋭敏な眼識、そして、偽りの宗教の神秘性、壮麗な偶像礼拝の儀式、荘重な建築や彫刻など、すべては成長中の彼の頭脳に深い印象を与え彼の習慣や品性の

形成に相当の影響をおよぼした。これらの印象をとり去ることができるのは、時間と環境の変化と、そして、神との交わりであった。モーセにとっても誤謬を捨てて真理を受け入れることは必死の激しい戦いを要した。しかし、**その戦いが人間の力では耐えられないほど激しくなるときには**、神が助けをお与えになるのであった。」⁴

我々がモーセの歴史を読むとき、彼の人生が40年の単位で区切られていることに容易に気づきます。40歳のとき、彼は、剣の力により世界を支配する準備ができていました。彼は、人としての力によって彼の国民を救う用意はできていました。しかし、神の民をくびきから導き出す準備はできていませんでした。み摂理は、モーセの心からエジプトを取り除くために、更に40年間を与える必要があるとみなしました。

「荒野における四十年間の訓練からモーセが得た経験はこうしたものであった。無限の知恵なる神は、その期間が長すぎるとか、あるいは**その代価が大きすぎるなどとは思われなかった。**」⁵



みとめた。あらゆる誘惑にたちむかう力を求めるために、彼は神によりすがった。」⁶

指導者

モーセの特徴は、重大な背教－金の子牛の崇拜の時に現れました。彼は、自分の国家の罪に対して断固たる態度をとりました。しかし、同時にモーセは、彼らに対する愛に鼓舞され、人間がかつて口にした中でもっとも特徴的な祈りをなし、状況の均衡を保ったのでした。

「モーセは、宿営の中にはいり、騒いでいる人々の間を通して偶像を取り払い、火にくべて焼いた。あとで、それをこなごなに砕いて山から流れてくる川の上にまき、人々に飲ませた。こうして彼らが拝んでいた神が、全く無価値なものであることを示したのである。」⁷

これが、罪に対して断固たる態度をとるということでした。それは、非情にみえるかもしれませんが、これは正しい態度でした。なぜなら、その態度は、彼らに対して彼が抱いていた本当の愛と神の栄光と名誉とのための強い思いに基づいていたからです。

「正義だけでなく、愛もまた、この〔金の子牛を崇拜するという〕罪が罰せられることを要求した。神は、神の民の主権者であると同時に、保護者でもあられる。神は、他の者を滅ぼさないようにするために、反抗をやめない者たちを滅ぼされた。……

幾百万の人々に刑罰が下るようにならないために、数千人が死ぬことは、神のあわれみであった。多数を救うために、神は少数に罰を与えなければならない。」⁸

レビの部族は偶像礼拝に参加していませんでした。そして他の部族出身のある者は自分たちの悔い改めを表しました。

「しかし、子牛を造ることを扇動した寄り集まり人が大部分を占めた大群衆は、頑強に反逆をやめなかった。そこでモーセは、イスラエルの神、

主の名によって、偶像礼拝に加わらなかった右側にいる者らに、腰につるぎを帯びて、反逆をやめない者をすべて殺すことを命じた。『その日、民のうち、おおよそ三千人が倒れた』（出エジプト 32:28）。悪の指導者は、どんな地位の人でも、親族、友人であろうがみな殺された。しかし、悔い改めて身を低くしたものは救われた。」⁹

これは神のために築かれたモーセの品性の「正義」の部分でした。その後、彼は有罪であったが、悔い改めた人々のためにとりなしに出ていきました。「あなたがたは大いなる罪を犯した」と彼は言いました。「それで今、わたしは主のもとに上って行く。あなたがたの罪を償うことが、できるかも知れない」。彼は言って、神のみ前で告白し、次のように言いました、「ああ、この民は大いなる罪を犯し、自分のために金の神を造りました。今もしあなたが、彼らの罪をゆるされますならば——。しかし、もしかなわなければ、どうぞあなたが書きしるされたふみから、わたしの名を消し去ってください」（出エジプト記 32:30-32）。

何という祈りでしょう！わたしたちは長い間「モーセの歌と小羊の歌」を歌いたいと願ってきましたが、この歌が何を意味しているかその概念を把握している人はほとんどいません。どのような愛情か、この歌を歌うとき、わたしたちの心の情感がどのように高まるのか、そしてこの歌がどの程度まで、わたしたちの地上の旅路と経験の実物教訓を反映するようになるのか、ほとんどわかっていないのです。わたしたちはモーセのように、「もしあなたがわたしの息子や娘を連れ戻してくださらないなら、もし我が民の、我が会衆の罪をお許しにならないなら、もしあなたが彼らの悔い改めをお受入れにならないのでしたら、『もしかなわなければ、どうぞあなたが書きしるされたふみから、わたしの名を消し去ってください』と祈ったことがあるでしょうか？

個人的にこの歴史的な「場面」を分析したあと、わたしは自分自身、自らを指導者と称している人がみな真の指導者なのではなく、またすべての人が指導者になれるわけではないことを悟りました。

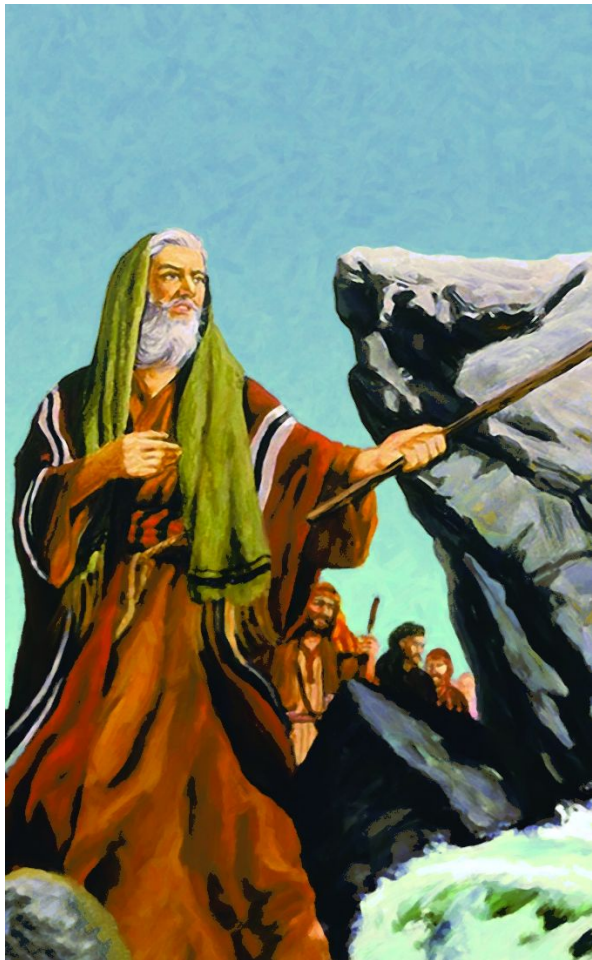
わたしたちはモーセを剣の人、そして彼の血を分けた兄弟であるアロンを「バランスのとれた」品行正しい人、知的で、おおらかで、民に人気があります。しかし、アロンはモーセが彼の命のために嘆願したときに、アロンはどこにいたでしょうか？「どうぞあなたが書きしるされたふみから、わたしの名を消し去ってください」という祈りにおいて、彼はどの立場にいたでしょうか？私は今、理解することができました！気楽で、すぐに愛するアロンは、モーセがその群衆を愛するのとは対照的に、自分自身を愛することがわかりました。アロンは、彼の命が失われることを恐れましたが、モーセはそれを恐れませんでした。アロンは、イスラエルの人々について関心をもちませんでした。モーセは彼らのために死ぬ用意ができていました—これがその違いです。我々が、アロンと同様に、そのような悲しい敗北の立場におかれたことがあったなら、私は、我々すべての者のために許しを主イエスに求めます。

反対に、モーセは日々の献身により、神が彼をどのような者にするかを神に委ねました。私は、彼と同じことをするでしょうか？正義と憐れみの完全な調和は、この偉大な神の人の人生において現れました。イエス・キリストと使徒パウロ（ローマ人への手紙 9:13）の他に、ここには、自分自身の人生と彼の民の人生を置き換える人がいました。彼の名はモーセであり、モーセの歌、小羊の歌を我々が歌う理由はここに 있습니다。

幻

反逆的で、つぶやき、頑固な民で苦労する長年の後、モーセは、成人時代の過ちに襲われました。疲れ果てていた一瞬、彼の忍耐は尽き、彼の人間としての性質が神に栄光を帰さなかったのです。年老いたモーセは、岩を二回打ちました。本来は、岩に対して語るだけで十分でした。しかし、打つことにより、彼はキリストの象徴を否定したのでした。このように名誉と権力を自分自身に帰することにより、モーセは、創造主を辱めま

した。非常に多くの年月にわたる服従の後、ただ一回の時点、一瞬において、モーセは失敗を犯し、これにより約束の地における彼の将来をなくしたのでした（申命記 3:23-26）。



「諸国の偉大な統治者であられる神は、モーセがイスラエルの会衆を良い地に導き入れることはできないと言明しておられた。そして、モーセの熱心な願いもこの宣告を取り消すことはできなかった。彼は、自分が死ななければならないことを知っていた。しかし、彼は、一瞬でもイスラエルの世話をやめなかった。彼は、会衆を約束の地に入れる準備を忠実に果たしてきた。」¹⁰

彼は「約束の地のプロジェクト」に関与することができなくなったにもかかわらず、何という指導者でしょう！今、彼は、自分自身の特権を失い

ました。しかし、彼は、それまでと同様、イスラエルのための自己犠牲の精神を保ち続けました。彼は、他の者に関する非難を一切口にしませんでした。彼は、へりくだって、つぶやかずに彼の運命を受け入れ、無条件で神に従いました。

モーセの人生に関する二回目の偉大な祈りは、彼自身のためになされました。「どうぞ、わたしにヨルダンを渡って行かせ、その向こう側の良い地、あの良い産地、およびレバノンを見ることができるようになしてください」（申命記 3:25）。人間による最高の表現、最大の感情、最も強烈で苦しい嘆願が、この祈りにおける一言一言に注ぎ込まれていました。しかし、モーセは、このときはじめて、自分の愛しい友、助言者、勧告者、そして最終的に自分の神であられるお方から「ノー」という言葉を受けました。他の全ての祈りは肯定的な回答を受けてきましたが、このときだけは違いました。これは、彼にとってどれほど苦しかったことでしょう。しかし、彼は、へりくだって次の声に従いました。「あなた．．．ネボ山にのぼり．．．わたしがイスラエルの人々に与えて獲させるカナンを見渡せ。あなたは上って行くその山で死に、あなたの民に連なるであろう」（申命記 32:49, 50）。

「モーセはそれまで、たびたび天の招きに従って宿営を離れて神と交わったことがあった。しかし彼は今、新しい神秘的な旅に出ようとしていた。彼は出かけて行って、自分の命を創造主の手にゆだねなければならなかった。**モーセはただひとりで死に、地上の友はだれも彼の最後を見とるのを許されないことを知っていた。**」¹¹

しかし、我々の神は常に偉大な神であり、素晴らしい神であります－彼の友であるモーセのために最後に究極的で甘美な教訓を与えました。イエスの足元で私に苦悩と崇敬の念を抱かせたのは、この教訓でした。……イエスがモーセに対し、彼は約束の地に入ることができないと述べられたとき、モーセは、墓以外のものは見ることはできませんでした。彼は、復活についての希望を抱いていました。

彼の悔い改めが即座になされたことから、彼は自分が許されたことを知っていました。神は彼に対し、彼が許されたことを示されました。しかし、高齢の疲れた目をしたモーセは、彼の人生の最後の時しか見えませんでした。人間の口によって語られた最も偉大なスピーチは、彼の愛された群衆に対するお別れでした。エジプトからの脱出において、イスラエルがモーセの最後のスピーチを聞いたときほど、尊敬、同情、苦しい後悔、哀れみ、涙をもってモーセのスピーチを聞いたことは、それまでありませんでした。人々は泣き、もし、彼を自分自身のところに引き留める何らかの方法があったならば、彼らはそれを行ったことでしょうー可能であれば、彼の遺体を崇拜することさえしたでしょう。このときほど、モーセの高い価値がみとめられたことはかつてありませんでした。しかし、神の宣告は不動でした。最後の抱擁がなされ、最後の言葉が語られました。彼が愛した者についての多大な心配をかかえながら、弱り、疲労したモーセは、一人でその山に登りました。

なんと同情深い羊飼いでしょう。全天が、この光景を見ていました。もし、モーセの目が開かれ、もし一瞬でも自分の愛する友なるお方が自分のかたわらを歩いておられる姿をみることができたならば。……しかし、それは許されず、一人でその杯を飲み、自分の主人の感化の下で、自分の過去、現在、将来について瞑想しなければなりませんでした。

ついに、神の愛は、彼の頭の中の雲を取り除き、暗闇を消し、その中のいたる場所に光をあてました。その神聖な愛の最大の力をもって、主はモーセに対し、将来のことを明らかにされました。偉大な争闘、歴史の最後のときまでつづくドラマー聖なる都の扉を開けるのがキリストであることを彼は見ました！これは、なんと力強い瞬間であったことでしょう！なんという発見であったことでしょう！「もう十分です」彼は、心の中でそう叫びました。「私は、神とそこにいる。」。モーセは、キリストが彼に与えた名誉

は、彼が望んでいたことをはるかに超えていたことを見ました。地上の約束の地は、彼が見た幻と比べればとるにたらないものであることに思えました。

モーセは間違いなく、聖書におけるもっとも偉大な英雄の一人であり、彼の人生の全ての面において、世の救い主であるイエス・キリストを象徴していました。モーセは、彼の民の苦しみをわがものとし、彼らの必要や弱点について同情心をもって理解をしました。そして最終的に、天とは我々の救い主であるイエス・キリストでありー彼は、我々の今の人生、および来たるべき人生のあらゆる面において、良識であり論拠であられるのです。

引用文献

1. 人類のあけぼの上巻 280
2. 同上 282
3. クリスマン教育の基礎 344〔強調付加〕
4. 人類のあけぼの上巻 283〔強調付加〕
5. 教育 61〔強調付加〕
6. 同上 61〔強調付加〕
7. 人類のあけぼの上巻 376
8. 同上 381
9. 同上 380
10. 同上下巻 87
11. 同上 88〔強調付加〕

エリヤ－回復の預言者

金曜日, 2016 年 12 月 9 日

A. C. サス著

イスラエルの状態

アハブ王の時代、イスラエルの人々は、恐ろしい背教に陥っていました。王自身が、恐ろしい状態の中心的な役割を果たしていました。聖書には次のように書かれています。「オムリの子アハブは、サマリアで22年イスラエルを治めた。オムリの子アハブは、かれよりも先にいたすべての者にまさて、主の目の前に悪を行った。彼はネバテの子ヤラベアムの罪を行うことを軽いこととし、シドン人の王エテバルの娘イゼベルを妻にめとり、行ってバアルに仕え、これを拝んだ。彼はサマリアにたてたバアルの宮に、バアルのために祭壇を築いた。アハブはまたアシラ像を造った。アハブは彼よりも先にいたイスラエルのすべての王にまさせてイスラエルの神、主を怒らせることを行った。」（列王記上 16:30-33）。

バアルは、最高の権威、豊穡の神として崇拝されていました。王、聖職者、預言者達は皆、この偽りの神を崇拝していました。

エリヤがアハブの目の前に現れる以前のことに、我々はエリヤに関する情報をあまり有していない。聖書は、突然、彼について「デシベ人であるエリヤ」と説明を始めています。彼はギレアドの地にある町であるデシベの出身でした。エリヤは、王に対して特別な説明をせず、単純に主のメッセージを彼に伝えました。変わっていたのは、彼のメッセージでした。「わたしの仕えているイスラエルの神、主は生きておられます。わたしの言葉のないうちは、数年雨も露もないでしょう」（列王記上 17:1）。

確かに、その後、干ばつと飢饉が生じました－そして、その地における食糧不足により、神はその預言者に対し、ヨルダン川であるケリテ川の近くに住むようにと指示されました。神はそこで、彼を養うことを約束されました。神は、彼にパンと肉を送られました。そして、飲み水としてその小川の水を彼にお与えになりました。

その後、ひどい干ばつが生じたため、ケリテ川は干上がりました。そのため、主は、エリヤをやもめとその息子の家に送りました。そこで彼は、やもめに対し、少し残っていた最後の小麦と油をもちいて彼のために小さいケーキを作り、その後、彼女とその息子のためにケーキを作るべきことを伝えるよう、主から命じられました。最初の食事を彼のために作り、その後、彼女とその息子のために作るべき旨を伝えることは、自分勝手のように思えました。しかし、そのような方法により、彼女はテストを受けていたのです。信仰により彼女は従いました。そして主は、奇跡的に、彼女の家の食事が、干ばつが終わるまで備えられました。（列王記上 17:10-16 参照）

アハブ王に遣わされたエリヤ

干ばつは非常に厳しく、そのため家畜用の草も生えていませんでした。「そのとき、サマリアにききんがはげしかった（列王記上 18:2）」。王は非常に怒り、エリヤを呼び、彼にあいさつするときに次のように言って、その大災害についてエリヤを非難しました。「イスラエルを悩ます者よ、あなたはここにいるのですか。」（17 節）。神の使者は、恐れったり怖がったりしませんでした。し

かしむしろ、王を次のように非難しました。「わたしがイスラエルを悩ますものではありません。あなたと、あなたの父の家がなやますのです。あなたがたが主の命令を捨て、バアルに従ったためです」（18 節）。

人々の罪を非難する



エリヤは、王に対し、全ての人々とバアルの預言者達を、カルメル山で対決するために集めるべきことを命じて、主導権を握りました。「命令はあたかも主のみ前に立っているかと思われた人が発したのである。そしてアハブは、預言者が王であって、自分は家来であるかのように直ちにそれに従った。」¹

彼らが 450 人のバアルの預言者、アシラの預言者 400 人、その他の人々を集めたのち（列王記上 18:19）、エリヤは次の突き刺すような直接的なメッセージにより彼らに臨みました。「あなた

がたはいつまで二つのものの間に迷っているのですか。主が神ならばそれに従いなさい。しかしバアルが神ならば、それに従いなさい」（21 節）。

人々は、恐るべき混乱の中にいました。不服従により彼らはかたくなになり、彼らは神とバアルを見分けることができませんでした。彼らは沈黙を保ちました。「大群衆の中でだれひとりとして、主に対する忠誠を表明する者はいないのである。欺瞞と無知と が暗雲のようにイスラエルをおおってしまったのである。すべての者が、一時にこうした致命的背信に陥ったのではなかったが、主が警告と譴責の言葉を彼らに送られたときに、それに心を留めないことが度重なるうちに、徐々にそうなったのである。義を行うことを離れ悔い改めを拒否する度に、彼らの罪は深まり彼らを天から遠く引き離した。そして今、この危機において彼らは、頑強に神のために立つことを拒んだ。」²

何千人もの人々に囲まれて、エリヤは大胆に一人で立った。しかし、天使達が彼のそばにいた。

バアルの預言者に立ち向かう

エリヤは、エホバとバアルに従う者達の両者に対し、真の神が火によって答える機会を与えようと言って挑戦しました。

その結果、「外面は大胆で反抗的な態度をとっていたが、彼らのやましい心は恐怖におののいて祭壇の用意をし、たきぎと 生けにえ をのせる。そして彼らは呪文を唱え 始める。彼らが彼らの神の名を呼んで、『バアルよ、答えてください』という甲高い叫び声は（26 節）、回りの森や山々にこだまして、隈なくひびき渡る。祭司たちは彼らの祭壇の回りに集まり、踊ったり、体をねじったり、叫んだり、髪の毛をむしったり、身を傷つけたりして彼らの神の助けを願い求めるのである。

朝は過ぎ昼になるが、それでもバアルは彼の惑わしに陥った信奉者たちの叫びに答えるきざしを示さない。彼らの気も狂わんばかりの祈りに対し

て何の声も答えもない。、犠牲は焼かれないままそこに残されている。

彼らが熱狂的な祈りを捧げているときに、悪賢い祭司たちは何かの方法で祭壇に火をつけて、人々に火が直接バアルから来たように信じさせようと、たゆまず努力している。しかし、エリヤはすべての行動を見ている。それでも祭司たちは、なんとかして人々を欺く機会を捕らえようとして、彼らの無意味な儀式を続けるのである。……

ついに祭司たちは、大声でわめき立てたために声がかれ、その衣は自らの身を傷つけた血にまみれて、絶望状態に陥る。彼らの熱狂ぶりは衰えを見せない。今や彼らの嘆願には、彼らの太陽神に対する恐ろしいのろいの言葉が混じる。エリヤはそれを一心に見守っているのである。なぜならば、もし祭司たちが何かの方法で祭壇に火をつけることに成功するならば、彼はただちに引き裂かれてしまうのであった。

「夕方が近づいてくる。バアルの預言者たちは疲労のため倒れて混乱に陥る。ある者が何かを言うと、他の者が別のことを言うので、ついに彼らはその騒ぎをやめてしまう。彼らの叫びとのろい声は、もうカルメル山上に響かなくなる。彼らは絶望してこの争論から引き下がる。」³

真の神の礼拝を回復する

「夕の供え物を捧げる時になり、エリヤは人々に向かって、『わたしに近寄りなさい』と命じる（2 節）。彼らがふるえながら近づいてくると、彼はかつて人々が天の神を礼拝していた、壊れている祭壇のところへ行ってそれを繕うのである。彼にとってこの瓦礫の上は、どんなに壮麗な偶像礼拝の祭壇よりも尊いのである。

「エリヤはこの昔ながらの祭壇を修復することによって、イスラエルがヨルダン川を渡って約束の地にはいったときに、主が彼らと結ばれた契約を尊重していることをあらわしたのである。彼は、『ヤコブの子らの部族の数にしたがって十二の石

を取り、……主の名によって祭壇を築』いた（列王紀上 18: 31, 32）。」⁴

エリヤは、彼の働きが成功することの期待をすることができる前に、また彼が自分の祈りに対する神の答えを聞く前に、回復の働きを行わなければなりません。そして、彼はそのようにしました。彼は、壊された神の祭壇を直しました。この回復の働きが完了するまでは、雨を期待することはできませんでした。

「祭壇が出来上がると、預言者はその回りにみぞを作る。そして薪を並べ、牛を切り裂き、その犠牲を祭壇の上に載せて、人々に 犠牲と祭壇とに水を十分かけるように命じるのである。「『四つのかめに水を満たし、それを燔祭とたきぎの上に注げ』。また言った、『それを二度せよ』。二度それをする、また言った、『三度それをせよ』。三度それをした。水は祭壇の周囲に流れた。またみぞにも水を満たした」（列王紀上 18:33～35）。」⁵

エリヤは、彼の祈りに対する答えを得るために何時間も叫ぶ必要はありませんでした。彼が祈ったと同時に、天下から火が下りてきて捧げものを焼き尽くしたと聖書は述べています。彼の祈りは短くまた的を射たものでした。「『主よ、わたしに教えてください、わたしに教えてください。主よ、この民にあなたが神であること、またあなたが彼らの心を翻されたのであることを知らせてください。』そのとき主の火がくだって燔祭と、たきぎと、石と、ちりとを焼き尽くし、またみぞの水をなめつくした。」（列王紀上 18:37, 38）。

エリヤの祈りに対する神の明白な回答を見たときに人々の反応は肯定的なものでした。「民はみな見て、ひれ伏して言った。『主が、神である。主が神である。』」（列王紀上 18: 39）。

このように素晴らしい神の力が明らかにされた後、「エリヤは彼らに言った『バアルの預言者を捕らえよ。そのひとりも逃がしてはならない。』そこで彼らを捕らえたので、エリヤは彼らをキシ

ヨン川に連れくだって、そこで彼らを殺した。」
（列王紀上 18:40）。

偉大な回復の働きが成功しました。その時、彼らは雨の恵みを期待することができました。エリヤは、祈るために山に登りました。彼が雨を降らせてくれるよう嘆願したとき、彼の信仰は厳しく試されました。彼は6回祈りましたが、雨が降る気配はありませんでした。7回目の祈りの後、エリヤに仕える者が、エリヤに新たな知らせをもってきた。「海から人の手ほどの小さな雲が起っています」（列王紀上 18:44）。

全ての人々は雨を見て喜びましたが、イゼベルだけは例外でした。その悪い女は、罪に深く陥っており、彼女は、神の預言者が偽りの預言者を破滅させたように彼を破滅させるという苦々しい脅しをもって応じました。

砂漠におけるエリヤ

エリヤの信仰は再び試されました。彼は、砂漠へと逃れ、真の神を礼拝する者は彼一人しかいないと考えるようになりました。彼は今、死にたいと思いました。そのため彼は、彼の命を奪ってくださるよう主に嘆願しました。疲労し、疲れ切ったエリヤは、れだまの木の下で寝るために横になりました。天使が彼のところにきて、彼を起こし、彼が持ってきたパンと一びんの水をとるよう命じました。それらを食べて飲んだ後、彼はまた寝ました。天使は再び彼に食べて飲むことを命じました。なぜなら、ホレブ山への彼の旅は非常に長いものになるからでした。彼は、その神の山まで 40 日かけて旅をしました。その山の近くで彼は荒野の中の洞穴の中に入った。それにより彼は、野生の獣から身を守ることができました。神は、天使をつかわし、彼に質問をしました。

「『エリヤよ、あなたはここで何をしているのか』。彼は言った、『わたしが、万軍の神、主のために非常に熱心でありました。イスラエルの人々はあなたの契約を捨て、あなたの祭壇を壊し、刀をもってあなたの預言者たちを殺したのです。』」

ただわたしだけが残りましたが、彼らはわたしの命を取ろうとしています』」（列王紀上 19:9, 10）。

主は、ほら穴からでてくるようエリヤにお命じになりました。とても強い風が吹いていました。その後、地震があり、また火が生じました。しかし、主はそこにおられませんでした。静かな細い声が再び聞こえました。「エリヤよ、あなたはここで何をしているのか」。エリヤは、同じ悩みを繰り返しました。全てが終わってしまい、信仰をもつ者は彼自身一人しかいないと彼が感じ—また、彼の命が危険にさらされていると感じたとき—主は、全てが終わったわけではないことを示されました。そこには、バアルを崇拝しなかった信仰深いイスラエル人が他に 7,000 人いました。

今、主はエリヤにカルメル山に戻るのではなく、むしろ北のダマスカスに行き、そこで、シリヤを治める王に油を注ぎ、イスラエルのために別の王に油を注ぎ、彼の地位を引き継ぐ一人の預言者に油を注ぐようお命じになりました。神の働きは止まってはなりませんでした。それは、継続され、広がらなければなりませんでした。

エリヤとバプテスマヨハネの比較

エリヤ

エリヤは偉大な預言者であった

エリヤは荒野で教えられた

エリヤは王を譴責した

アハブ王は結婚において過ちをおかした

イゼベルは神の預言者を殺した

エリヤは気落ちし、困惑した

エリヤは回復者であり、改革者であった

エリヤは食事において進歩した

エリヤは死をもって脅かされた

バプテスマのヨハネ

バプテスマのヨハネは偉大な預言者であった

バプテスマのヨハネは荒野で教えられた
バプテスマのヨハネは王を譴責した
ヘロデ王は結婚における過ちに関与した
ヘロデヤは、バプテスマのヨハネが殺されるように仕向けた
バプテスマのヨハネは改革者であった
バプテスマのヨハネは菜食主義者であった
バプテスマのヨハネは殺された

バプテスマヨハネと神の残りの民の比較

バプテスマのヨハネ

バプテスマヨハネは偉大な回復者であり改革者であった
バプテスマヨハネは菜食主義者であった
バプテスマヨハネはイエスの初臨のための道を備えた
バプテスマヨハネは単純は衣服を着ていた
バプテスマヨハネは罪を罪と呼んだ
バプテスマヨハネは真実を語ることによって殺された

神の残りの民

神の民は回復者であり改革者である
神の民は菜食主義者である
神の民はキリストの再臨のための道を備える
神の民は単純な衣服を着る
神の民は罪を罪と呼ぶ
多くの神の民は、真理を擁護し、キリストのために殉教者する

エリヤの生涯から得られる教訓

我々がエリヤの生涯から学ぶことができる教訓は多くあります。

エリヤの食事は進歩しました。最初はパンと肉でした。その後、パンと油と水でした。その後はパンと水でした。彼が生きたまま昇天するのにふさわしい者となったとき、最も単純な食事をす

るようになっていました。信仰により、我々は昇天の準備をし、また我々の健康の習慣において同様に進歩しなければなりません。

アハブ王の背教、彼が神から離れたこと、偶像礼拝に陥ったこと、違法な婚姻関係に入ったことについて、その預言者は恐れずに王を譴責しました。その王は、これらの全てのことによって、その民を惑わしたのでした。

エリヤは、雨が降る前に回復の働きが完了しなければならないことを理解していました。同様に、後の雨が降る前に、回復と改革の働きが完了しなければなりません。そして、神の民は傷のない者となり、神の地上における最後の働きのために、また昇天のために準備をしなければなりません。

エリヤのように神の民が失望と落胆により悩まされ、継続しても意味がないと考えるようになったとき－彼らがその働きと神への奉仕を放棄しようと考えるとき－神の「静かな細い声」が「あなたはここで何をしているのか」と尋ねるのが聞こえてきます。その声は次のようにささやきます。「わたしは、あなたをわたしのぶどう畑で働かせるために遣わした。しかし、だれが、あなたを自分の召しから隠れるためにここに遣わしたのか」。

エリヤに象徴される神の僕たちは取り去られるかもしれません（彼らは、働きを止めるかもしれません）。しかし、働きは止まってはなりません。それは、全地が現代の真理によって明るくされるまで、すなわちキリストの義、このお方のご品性がお方の忠実な民から反映するまで継続されるのです。私がいてもいなくても、救いのメッセージは世界の果てまで伝えられます。しかし、神と共に働くことができるということは偉大な名誉と特権です！残るものは一つだけであり、それは、我々がイエスのためにしたことです。他の全てのもの－我々のタラントを貸し与えたペリシテ人たちはその富と共に滅びます。我々の努力により救われる魂達は、主のために熱心に働いた報いとして我々の王冠につけられる星です。

バプテスマのヨハネは、「万事を元どおりに改める」（マタイ 11:12-14; 17:11）ために来たるべきエリヤでした。彼は、過った結婚に関与したヘロデを譴責しました（マタイ 14:3, 4）。それは、誤った婚姻関係をもったアハブ王をエリヤが非難したのと同様でした。バプテスマのヨハネは菜食主義者でした⁶。エリヤが昇天の前に単純な食事をとったのと同様でした。

イエスの再臨を待つ神の民は、エリヤとバプテスマのヨハネにより象徴されています。主は次のように宣言されました。「見よ、主の大いなる恐るべき日が来る前に、わたしは預言者エリヤをあなたがたにつかわす。彼は父の心をその子供たちに向けさせ、子供たちの心をその父に向けさせる。これは、わたしが来て、のろいをもってこの国をうつことのないようにするためである。」（マラキ書 4:5, 6）。

神の残りの民は、改革と回復の働きを前進させます。「あなたの子らは久しく荒れすたれる所を興し、あなたは代々やぶれた基をたて、人はあなたを『破れを繕う者』と呼び、『市街を繕って住むべき所をなす者』と呼ぶようになる。」（イザヤ書 58:12）。

「キリストの再臨のために道を備える人々は、ヨハネがエリヤの霊のうちにキリストの初臨の道を備えたように、忠実なエリヤによって象徴されている。改革という大いなる主題は掻き立てられ、大衆の思いは活性化されなければならない。神の民を偶像礼拝、暴飲暴食、衣服や他の事柄における贅沢から向きなおらせるために、万事における節制がそのメッセージと結びついている。」⁷ 「キリストは、ご自分の教会の中に、ご自身をあらわそうと熱望しておられる。キリストの品性が完全にキリストの民の中に再現されたときに、彼らをご自分のところに迎えるために、主はこられるのである。主イエス・キリストの再臨を待ち望むばかりでなく、それを早めることが、すべてのクリスチャンの特権である（ペテロ第二・ 3:12 文語訳参照）。」⁸

あなたはその準備ができていますか？

引用文献

1. 国と指導者上巻 113
2. 同上 115
3. 同上 116-118
4. 同上 118, 120
5. 同上 120
6. 教会への証 3 巻 62
7. 同上
8. キリストの実物教訓 47

ダニエル―道徳的及び知的巨人

安息日 2016 年 12 月 10 日

R. イオニタ著

「それだから、あなたがたの天の父が完全であられるように、あなたがたも完全な者となりなさい」（マタイ 5:48）。

「神がその子らにお望みになる理想は、人間の考えのおよばないほど高いものである。神のようになること、すなわち 神のみかたちに似ることが、到達しなければならないゴールである。」¹

主のわたしたちのための理想を考えるとおびえて、希望さえなくなります。なぜなら、「すなわち、すべての人は罪を犯したため、神の栄光を受けられなくなって」いるからです（ローマ 3:23）。わたしたちはいつかこの理想に到達できるのでしょうか？わたしたちは単なる上がったたり下がったりの連続ではなく、継続的な成長の生涯を送ることができるのでしょうか（ローマ 7:14-19）。

そうです、33 年半の間、完全な生涯を送られたお方を通して、わたしたちは勝ち得て余りあるものとなることができます！このお方の命はわたしたちに与えられました。わたしたちは自分の従順のゆえに救われるものではありません。そうではなく、救われているから従うのです。すなわち命の新しさのうちにこのお方と共によみがえり、このお方の御霊によって新しくされ、キリスト・イエスのうちにあって新しい被造物となり、このお方の義に覆われているからです！（ローマ 6:4, 6, 8; コリント第二 5:17）

主はわたしたちに理想を掲げられるだけではありません。このお方は豊かにご自分の恵みをわたしたちに注ぎだし、ご自分の方法とご自分の力を

示し、さらにそのみ言葉の中に鼓舞させる人間の模範を与えて下さっています。

「神のみ言葉はわたしたちの生活を支配すべき真理の偉大な原則と義務を提示しているばかりではなく、わたしたちの励ましのためにこれらの諸原則を例証してきた多くの人々の歴史もまた提示している。『わたしたちと同じ（情欲の下にある）』人々が、誘惑と戦い、全能なる助け手の力のうちに勝利してきた。わたしたちが直面するように召されているよりも大きな困難の下で、人々は義務と神に対して真実であったのである。」²

品性においてイエスに次ぐ

これらの模範の中で、非常に特別な方法でわたしたちの主の栄光のために輝いている模範が一つあります。

「一つの完全な型を除いては、聖書の中に預言者ダニエルの品性ほど模倣の価値がある品性は一つとして述べられていない。青年時代に王宮のあらゆる魅惑にさらされながら、彼は屈することのない高潔さと神への熱心な献身の人であった。彼はサタンの火のような誘惑の下にありながら、彼の品性は揺れ動くことなく、彼の方針が変わることはなかった。彼は多くの人が屈するところで堅固であった。彼は多くの人が偽るところで真実であった。彼は多くの人が弱くなるところで強かった。ダニエルは気高いレバノンの杉であった。」³

ほえたけるバビロンの下で「屈することのない高潔さ」の「気高い杉」―まもなく明日のバビロンの嵐に直面しなければならないわたしたちにとって、

これ以上励ましとなるものがあるでしょうか！このような美しい生涯、このような鼓舞させる経験！エルサレムの貴族に属していた自分の両親との豊かな生活からバビロンへ追放者として鎖につながれるまで、奴隷の孤独から世界帝国の王宮や神殿の間にある王家の大学のきらびやかさまで、世界帝国の統治者の地位からしし穴まで、この人は自分の神のために輝いていました。そして敵のどんな策略も彼を揺るがすことはできなかったのです！謙遜で、気高く、輝く知性をもって、しみなく自分の抑圧者たちと自分の愛する救い主に仕え、帝国を支配し、それでいながら、決して自分の礼拝の時間を逃すことなく、ダニエルの生涯は多くの世代のための励ましとなりました。

「預言者ダニエルの信仰、高潔さ、献身が、今日の神の民の心のうちに生きていたならば。これらの気高い資質が今ほど世に必要とされていることはかつてなかった。」⁴

この「わたしたちと同じ（情欲の下にある）」人はどのようにしてこのような重い環境下で成功することができたのでしょうか？もしわたしたちが彼の動機を理解するなら、わたしたちも同じ諸原則に従うために鼓舞され、自分自身の経験において同じ霊的な道具を用いて、同様の結果を期待することができます。ですから、祈りをもってダニエルの経験のいくつかの局面を吟味しましょう。

基礎

今日、世界一高い人工的な建造物であるブルジュ・カリファは 829.8 メートルあり、その土台は 45,000 平方メートル、重さは 110,000 トンありますが、これは全世界の建物のために用いられているコンクリートの総量のおよそ 1/7 に相当します。たしかに訪問者が一般的に感嘆するのは、ただ塔の「見える」部分であり、50 メートル埋められた基礎ではありません。しかし、そのような基礎の極めて大きな重要性をだれが疑うことができるでしょう。

同様に、「道徳的な巨人」⁵ であったダニエル、すなわち聖書の中でイエスに次いで最高の人だと表されている人が持っていた品性の基礎についてはどうでしょうか。彼はどのようにして、外国人でしかも奴隷でありながら、およそ十もの帝国の総理大臣としての信頼を勝ち得ることができたのでしょうか。

「ダニエルの両親は彼が幼少の頃に厳しい節制の習慣をつけるために彼を訓練していた。彼らは彼がすべての習慣において**自然の法則を守らなければならない**ことを教えていた。彼の飲食はそのまま彼の身体的、精神的、また道徳的性質に感化を及ぼすこと、また彼は自分の能力について神に対する責任があることを教えた。なぜなら、彼はそれらを神からの賜物として持っているからであった。そしてどのような一連の行動によってもそれらの成長を妨げたり活動不能にしたりしてはならなかった。この教えの**結果、神の律法は彼の思いの中で高められ、彼の心の中であがめられた。**」⁶

バビロンによるエルサレムの包囲攻撃で、ダニエルの地上の富や社会的な地位は突然に即座の奴隷制によって取り去られました。しかし、彼の最高の霊的な富—自制の理解と深い責任感、すなわち自分のすべてのタラントに対する神への責任の自覚—は決して取り去られませんでした。この高貴な青年と彼の三人の友達（幼少より、ただ一つだけ可能な基礎があり（コリント第一 3:11）、広く、大きく、永遠であることを理解していました。そして、彼らは断固としてこの上に自分の全生涯を築こうと決心したのです！

「この〔親の〕教育は、ダニエルとその仲間たちにとって、バビロンの宮廷の退廃的影響のただ中であって、彼らを保護するてだてとなった。あの宮廷の腐敗と華やかさの中で彼らを取り巻く誘惑は、実に強力であったが、彼らは汚染されなかった。どんな権力、またどんな影響力であっても、彼らが幼少のころ、神の言葉とみわざから学んだ原則から、彼らを動揺させることはできなかった

た。」⁷ この神を畏れる両親によってなされた忠実な働きには測りがたい結果が伴い、この世ばかりでなく永遠にまで及ぶものでした。イスラエルの民は困難な時期を経験しました。不従順と偶像礼拝が全国家に災害をもたらしました。しかし、これらの家族は自分たちの家庭生活において物事をそのしかるべきところへおき、自分たちの優先事項を正しく定めることができました。これはわたしたちの時代に希望をもたらします。

柱

彼らの幼少時代に植えられた堅固な根は祝福された結果をもたらしました。ダニエルとその友達 は自分たちの困難な状況のゆえに、王の意志に反して進み、それによって彼を怒らせて自分たちの命を危うくすることは賢明ではない、神の定めへの従順からほんのわずかに反れたとしても大したことではないと結論づけることもできたはずでした。

「しかしダニエルは ちゅうちょしなかった。**神の是認は**、この地上の最も強力な王の恩顧を受けることよりも**彼には 尊く、生命そのものよりも尊いこと**であった。彼は、結果がどうなろうと、**高潔さを保って固く立つ決心をした。**」⁸

一方、なぜ今日非常に多くの神の子らは小さな指人形のように敵の気まぐれに揺れるのでしょうか？「自分自身の意志、自分の好きな愛情や仕事の対象を捨てることは犠牲を要するが、それに彼らはためらい、よろめき、踵を返すのである。…彼らは善を望み、それを得ようといくらかの努力をする。しかし、彼らはそれを選ばないのである。彼らはすべてを払ってでもそれを得るという確固とした目的を持たないのである。」⁹

ダニエルの経験において、決心が鍵でした（ダニエル 1:8）。神の誉れ、このお方のみ名の栄光は彼にとって「生命そのものより」尊いものだったのです！人性は、意志を用いることによって、自制を働かせ、心の中の情欲の嵐を静めることはできません。だれもできません。しかし、わたし

たちは自分自身の意志を聖なる御父のご意志に屈服させることを選ぶことはできます。そのとき、わたしたちの意志は全能となるのです！¹⁰ 神の恵みによって、わたしたちは「何事でもすることができる」（ピリピ 4:13）。この力、この強さはすべての信仰の英雄たちの生涯に見られました。そしてダニエルの生涯はそのリストの一番上で輝いているのです。

継続的な成長は継続的な努力を意味する

ダニエルは、正しい目的と揺るがない決心をもって良いスタートを切りました。彼は同じ方針で続けるのでしょうか？「どういうふうに建てるか、それぞれ気をつけるがよい」（コリント第一 3:10）。他では良いスタートを切りながら、生涯の戦いの後になって失敗が人間の窮状の一部であることを見出した人々が多くいなかったでしょうか。ここに決定的な要素があります。

「品性は偶然にはでき上がらない。それは一回の感情の破裂や悪い方向への一歩だけでは決定されるものではない。くりかえされた行為が習慣となって、善、もしくは悪のいずれかの品性が形づくられるのである。正しい品性は、**たゆまない不屈の努力**と、自分にゆだねられた才能や能力をことごとく神の栄えのために活用することによってのみ形づくられる。……今日の青年がダニエルのように立ちたいと思えば、彼らは**霊的な神経と筋肉をことごとく緊張させ**なければならない。主は彼らがいつまでも未熟な者であることをお望みにならない。神は彼らが最高の優秀さに到達するように望んでおられる。神は彼らが、はしごの頂上に達して、そこから神のみ国にはいるように望んでおられる。」¹¹

この神の願いはダニエルの生涯において十分に成就しました。倦むことなく努力し、どんな才能も日々発達させることによって、彼は「栄光から栄光へと、主と同じ姿に変えられていく。これは霊なる主の働きによるのである」（コリント第二 3:18）。「ダニエルはわたしたちと同じ（情欲の

下にある) 人間でありながら、靈感の筆は彼を傷のない品性として提示している。彼の生涯は、人がもし神を自分の力として、賢明に自分の手の届く特権と機会を生かすならば、どのような者になることができるかという明るい実例を与えている。」¹²

諸原則

傷のない品性のための秘訣は何でしょうか？このような種類の人々を大半の人とこれほどまでに違ったものとしたのは何でしょうか？ここに答えがあります。「聖書は人が**原則から行動**すべきことを教えている。そしてわたしたちが悪の感化力に抵抗するのに成功するときはいつも、攻撃されたその原則を強めているのである。タラントをただ持っているだけでは生涯における有用性や幸福の保証とはならない。**正しい諸原則こそ真の成功の唯一の基礎なのである。**」¹³

まさにこの同じことがダニエルの生涯において大胆に表されました。「〔ダニエル〕は不信と疑いに囲まれており、彼の敵は彼の命をねらってわなをかけていたにもかかわらず、なお彼は穏やかに快活な神への信頼を維持し、**決して一度も原則からそれることがなかった。**」¹⁴

「ダニエルの歴史からわたしたちは神のご要求への厳密な遵守が将来の不死の生涯においてばかりでなく、今の生涯においても祝福となることを学ぶことができる。**宗教的な諸原則を通して、人はたとえ大きな犠牲を払うことになったとしても、サタンの誘惑と悪人たちの策略に対して勝利することができる。**もしダニエルが異教の統治者たちと妥協して、自分の神を否定したとしたらどうであったであろうか。もし、宮殿に入った当初に、バビロン人たちの間の習慣どおりに飲食することによって、誘惑の圧力に負けていたらどうであったであろうか。その誤った一步がおそらくは次へと導き、ついには天の存在とのつながりが切れて、彼は誘惑の力によって連れ去られてしまったことであろう。しかし、彼が揺るがない祈りに満ちた

信頼をもって神にすがっているあいだは、捨てられることはありえなかった。**神聖な保護はそれを求める人々に保証されている。**そして神はご自分の言葉を忘れることがおできにならないのである。」¹⁵

これはキリストーとこしえの岩一が基礎であるばかりでなく、このお方が柱であり、隅のかしら石であり、屋根であり、初めであり終わりであることを意味しています。このお方はしみのない成功の人生の保証人であられました。このお方のみ言葉を忠実に日常生活にあてはめ、ダニエルがしたようにこのお方にすぐることによって、信徒は自分の人生のいかなる局面においても勝利者となることができるのです！

これはみなさんとわたしにとって、今日のおいてもすばらしい約束です。「**宗教的な原則によって均衡がとれ、あなたは望むままにどんな高さまでも上ることができる。**わたしたちは、あなたがたが到達するよう神の意図された高尚な高さにまで、あなたがたが上るのを見ることを喜ぶ。」¹⁶

全能者との交わり

そのような無限の神の子らが生涯の戦いにおいて勝利者に満たないものであったらどうでしょうか？あるいはさらに悪く、恥ずべき、打ち負かされた、敗北者であったら？悲しいことに、神がご自分の子らを尊び、ご自分の助けを求めないことにおいても自由を尊重しておられるのはこのゆえです。このお方が彼らに「あなたがたは、命を得るためにわたしのものにこようともしない」と言わなければならないとは、何と悲しいことでしょうか（ヨハネ 5:40）。

「ダニエルは厳しく試された。しかし、**彼は謙遜な祈りの精神の人であったために勝利した。**」¹⁷

「ダニエルは祈りの人であった。そして神は、彼を不節制のわなに引き込もうとたくらまれたすべての悪の感化に抵抗するための知恵と堅固さを彼にお与えになった。青年期においてさえ、彼は全能者の力のうちにあって道徳的な巨人であっ

た。」¹⁸ この「道徳的な巨人」は内側でどのように感じているのでしょうか？「わたしが弱い時にこそ、わたしは強い」（コリント第二 12:10）と、心の窓を広くあらゆる力、知恵、そして慰めの源であられるお方に向かって開いています。その人は自己を疑い、大能者を完全に信頼しています。謙遜な霊をもって天の光を求め、それを受けます。使徒パウロは、自分のからだを「打ちたたいて」「服従させる」と言いました（コリント第一 9:27）。このような人に、神の力は惜しみなく与えられます。道徳的な巨人は、祈りの人です。なぜなら、これは「魂の呼吸」「それは霊的な力の秘訣」¹⁹ だからです。祈りはダニエルの生涯において日々の現実でした。驚くことに、彼の敵たちでさえ、彼をししの穴に入れようとたくらんだ時にこのことを悟っていました（ダニエル 6 章）。

「ダニエルは、神との交わりの価値を知っていた。」²⁰ そして、彼は自分の命を妬み深い人々から守るためにそれを隠しませんでした。何物もそれを断ち切ることはできなかったのです！（ローマ 8:35-39）

「死に直面しても、政策的な道よりは正しい道をとることを選んだこのひとりの人〔ダニエル〕の道徳的な勇気を通して、サタンは打ち負かされ、神は誉を得られた。なぜなら、ししの力からのダニエルの救出は彼の礼拝している存在こそ真の生ける神であられる顕著な証拠だったからである。」²¹

大きな小事

神にとって、小さい重要性というものは何もありません。このお方の愛する子らも同じです。

「ダニエルの強さの秘訣は、**世が重要性が低いという事柄に良心的な注意を払う**ことに見いだされた。」²² 一日三回の献身においても、帝国の小事や大事においても、彼は何であろうと重要でないとみなすような不完全さはありませんでした。彼の働き全体を注意深く吟味した後で、彼の敵たち

は何のとがめもしみも見いだすことができなかったのです！

謙遜な光の通路

ダニエルは神の御霊の保管者となりました—**「彼のうちにあるすぐれた霊」**（ダニエル 6:3）。交わりによって、すなわち眺めることによって、人間は変えられます。²³ 驚くことに、「うちには聖なる神の霊がやどっていた」ダニエルの生涯のうちに、諸王は天の存在を観察しました（ダニエル 4:8）。「ダニエルは自分の**人間的な能力の価値を認めていたが、それらに頼ってはいなかった**。彼の信頼は、神が謙遜により頼んでご自分のみ許へ来るすべての者に約束された力におかされていた。」²⁴

ダニエルは神の民が危険のうちにいるときに、利己的に自分の行政上の立場の特権を享受し、自分の功績を誇っていたわけではありませんでした。²⁵ 彼は自分の利害を彼らと共にし、彼らの状態を自分のものと認め、彼と彼ら自身のためにとりなしをしました（ダニエル 9 章）。真実、この「大いに愛せられる人」の子は（ダニエル 10:11）、完全な模範を厳密に反映しました。彼はつねに自分の霊的な理解力を「断食をなし、荒布を着、灰をかぶって」形成し（ダニエル 9:3）、「〔彼の〕うちなる霊は憂え」、明らかにされた事柄の「意味を知ろうと求めて」（ダニエル 8:15）、彼の思いは「悩ま」されました（ダニエル 7:15）。そして訪れようとしていた暗黒時代のために彼に表された光の宝は尊いものでした。

皆さんとわたしのための教訓

さあ、今度はわたしたちの番です！

「神の約束を主張しなさい。もしあなたがダニエルのしたように主に協力するならば、このお方はダニエルのためにしてくださったように、あなたのためにすべてをなしてくださる。あなたはへりくだって真摯に自分の贖い主に信頼することによって勝利者となることができる。」²⁶

「どんな誘惑にも屈しなかった、忠実な政治家
ダニエルのようにわたしたちも立たなければならない。わたしたちを愛し、わたしたちの罪をあがなうために、その命を捨ててくださった主を失望させてはならない。『わたしから離れては、あなたがたは何一つできないからである』と主はおおせになる（ヨハネ 15:5）。これを忘れないでほしい。もしあやまちを犯した場合には、そのあやまちを認めて、それを再びくり返さないように戒めとするならば、勝利を収めたことになる。こうして**敗北を勝利にかえ**、敵に乗ぜられることなく、あがない主にほまれを帰すことになるのである。」²⁷

「『恐れずダニエルになろう、恐れず一人で立とう！』正しいことをする勇気を持ちなさい。」²⁸

「ダニエルは特別な者とみなされた。そして神を自分の勧告者とし、心の単純さのうちにこのお方を求める人はみな、世から特別な者とみなされるであろう。しかし、**これこそ、わたしたちの必要としている信仰であり**、これこそわたしたちが持たなければならない経験である。」²⁹

「賢い者は、大空の輝きのように輝き、また多くの人を義に導く者は、星のようになって永遠にいたるでしょう。」（ダニエル 12:3）。あなたは彼らのうちの一人になりたいでしょうか？値は支払われ、勝利は得られました！決心、輝く厳粛な決心はあなたのものです！生きた明るさをもって輝き、主のために輝きましょう！アーメン！

引用文献

1. 教育 8
2. ビュー・アンド・ヘラルド 1882 年 11 月 7 日
3. 同上〔強調付加〕
4. 同上
5. 今日のわたしの生涯 20

6. クリスチャンの節制と聖書の衛生 23〔強調付加〕
7. 国と指導者下巻 94
8. 同上 p. 483.〔強調付加〕（同上）
9. 神の驚くべき恵み 225.
10. わたしたちの高い召し 298.
11. ユース・インストラクター 1899 年 7 月 27 日〔強調付加〕
12. サインズ・オブ・タイムズ 1886 年 11 月 4 日〔強調付加〕
13. ビュー・アンド・ヘラルド 1883 年 9 月 25 日〔強調付加〕
14. サインズ・オブ・タイムズ 1886 年 11 月 4 日〔強調付加〕
15. 同上〔強調付加〕
16. クリスチャン教育の基礎 83〔強調付加〕
17. サインズ・オブ・タイムズ 1886 年 11 月 4 日〔強調付加〕
18. 今日のわたしの生涯 20.〔強調付加〕
19. 青年への使命 245
20. サインズ・オブ・タイムズ 1886 年 11 月 4 日
21. 同上〔強調付加〕
22. サインズ・オブ・タイムズ 1891 年 5 月 25 日〔強調付加〕
23. 彼を掲げよ 266.
24. クリスチャンの節制と聖書の衛生 22.〔強調付加〕
25. レクチュア・メッセージ 3, p. 353.
26. 福音宣伝者（1892）, p. 239.
27. キリストの実物教訓 306.307〔強調付加〕
28. 節制 189.
29. サインズ・オブ・タイムズ 1889 年 11 月 4 日〔強調付加〕

勝利の生涯を送る

日曜日 2016 年 12 月 11 日

D. P. シルバ著

人類は神のご品性を反映し、創造主に栄光を帰するために創造されました。わたしたちの生涯は神のみ旨と完全に調和しているべきです。アダムとエバは自分たちの存在のうちに主のご目的を成就するためのあらゆる条件を所有していました。そして彼らが神のみ言葉への服従と従順を維持している間は、エデンで非常に幸せな生涯を送っていました。

創世記 3 章にわたしたちは人類のドラマ全体の始まりを見出します。エバは自分の夫から離れて、魂の敵と危険な会話に入り込みました。サタンはエバにへつらうために自分のあらゆる狡猾さを用いて、彼女に「神のように」なる可能性、すなわち大敵が天で発達させたのと同じ考えを約束しました。これはよく知られた歴史です。

エバは悪魔の提案に従い、欺かれて神の明確な指示を無視しました。彼女は禁じられていた実を食べ、それをアダムへ与えました。「アダムはエバのようにへびに欺かれたのではなかった。であるから、アダムには性急に神の明確な命令を犯す言い訳の余地はなかった。アダムは自分の妻が罪を犯していたので僭越になっていた。彼はエバがどうなるのかわからなかった。彼は悲しみ、悩み、誘惑された。彼はエバがへびの言葉を繰り返すのを聞き、彼の忠誠と高潔さは揺らぎ始めた。神が言われたことに対して言葉通りの意味だろうかとの疑いが思いの中に生じた。彼は急いで誘惑の実を食べた。」¹ その後、二人はエデンの園から追放されて、ずいぶん違った生涯を送ることになったのです。

夫婦がサタンの言葉を受け入れたときに、彼らは悪魔の友となり、自分の創造主の敵となりました。今や彼らの性質は墮落し、もはや神のみ旨を行う力を持っていませんでした。彼らは自分たちの祝福のパラダイスに残ることを許してほしいとたのみ、神のみ言葉に従順になることを約束しましたが、主は一ご自分から離れた罪深い存在として一彼らにはもはや、命の木のところへ行くことのできるエデンにいる特権はないことを彼らにお伝えになりました。

しかしながら、その大いなる憐れみのうちに、神はご自分の恵みを通して彼らに回復される希望をお与えになりました。創世記 3:15 で主は、夫婦をだますための媒介としてへびを用いたサタンに次のように言われました。「わたしは恨みをおく、おまえと女とのあいだに、おまえのすえと女のすえとの間に。彼はおまえのかしらを砕き、おまえは彼のかかとを砕くであろう」。

この神聖な宣言において、神は人類がサタンの臣民となったこと、及びこの悲しい現実を変えるために人類は主の介入を必要としていることを明らかにされました。神はサタンと自ら主に屈服する人々との間に「恨みをお」かれるのでした。さらにこのお方は贖い主、「女のすえ」、すなわちイエス・キリストを送ることを約束されました。このお方は罪なく、罪深い人性の傾向もなく、サタンに勝利し、失われた統治権を回復し、悔い改めた罪人を再び神との調和のうちに生きるよう連れ戻すために来られるのでした。

時が満ちるに及んで、キリストは人性をとって神との完全な調和のうちに完全な人生を送り、力

ルバリーの十字架上ですべての人類にふさわしい刑罰を受けるために死なれました。それから、このお方はよみがえり、昇天し、いまわたしたちのためにとりなしておられます。悔い改めた罪人に着せられるこのお方の完全で義なる品性を通して、キリストは神との調和のうちに勝利の生涯を送るために必要な一切の恵みを人類にお与えになりました。人類は、主との交わりのうちに、いま世と、肉と、悪魔に打ち勝つことのできる水準に置かれたのでした。

この過程において、わたしたちには自分の手の届くところにキリストの恵みがあり、その恵みはこのお方のみ言葉の中に表されています。さらに、わたしたちには聖霊の力があり、それは時機を得た助けや神の教会の中にいる信徒たちの協力と共に、わたしたちに与えられます。

わたしたちが勝利者になるために必要な主たる条件は、キリストの功績を信じる信仰を通して主とつながっていることに見出されます。

「罪深い人類は神のうちにのみ希望と義を見出すことができる。そして人間は神を信じる信仰を持ち、このお方との生きたつながりを維持していない限り、だれも義人ではないのである。」²

キリストとの個人的な経験

キリストはご自分に忠実に従う者となるようすべての罪人を招いておられます。マタイ 11:28-30 に、わたしたちはこのお方の招きと、自分が勝利者となることのできる条件を見いだします。「すべて重荷を負って苦勞している者は、わたしのもとにきなさい。あなたがたを休ませてあげよう。わたしは柔和で心のへりくだった者であるから、わたしのくびきを負うて、わたしに学びなさい。そうすれば、あなたがたの魂に休みが与えられるであろう。わたしのくびきは負いやすく、わたしの荷は軽いからである」。

要約しますと、わたしたちには勝利者となるために必要な招き、約束、そして条件があるということです。

「すべて……わたしのもとにきなさい。」

「（わたしが）あなたがたを休ませてあげよう。」

「わたしは柔和で心のへりくだった者であるから、わたしのくびきを負うて、わたしに学びなさい。」

「そうすれば、あなたがたの魂に休みが与えられるであろう。」

すべての人類がキリスト受け入れるように招かれています。このお方の招きから漏れている人はひとりもありません。なぜなら、「神はそのひとり子を賜わったほどに、**この世**を愛して下さった。それは御子を信じる者がひとりも滅びないで、永遠の命を得るためである。」（ヨハネ 3:16 強調付加）

マタイ 16:24 で、キリストは招きをくり返し、条件を与えておられます。

「だれでも**わたしについてきたい**と思うなら、**自分を捨て、自分の十字架を負うて、わたしに従ってきなさい。**」（強調付加）

この短い聖句の中に、わたしたちは救いの道における四つの基本的な過程を見いだします。

「だれでもわたしについてきたいと思うなら」。わたしたちは自分自身の選択によってキリストに従うことを決心する必要があります。だれもそうするように強制されることはありません。キリストは自発的な心だけをお受入れになります。しかし、罪の奴隷として、人類にはキリストに従うための力も意欲もありません。ですから、神はご自分の驚くばかりの恵みによって、わたしたちがそうしてほしいと望むなら、このお方の身許へ行き、従うための意欲と力を与えてくださいます。「あなたがたのうちに働きかけて、その願いを起させ、かつ実現に至らせるのは神であって、それは神のよしとされるところだからである」（ピリピ 2:13）。

「自分を捨て」。わたしたちはキリストに従いながら、同時に利己的な心の命じるところに従うことはできません。ここでも、神の恵みによって、聖霊の感化力を通して、わたしたちは自分自身の歪んだ意志を否定し、神のご意志を受け入れる力を受けるのです。



「自分の十字架を負うて」。キリストは「ご自分の」十字架について述べておられるのではありません。このお方の十字架を負うことができるのは、このお方だけです。わたしたちはこのお方がご自分の十字架を通してわたしたちのためになして下さったことを受け入れ、自分の十字架を負って、自分自身の罪深い願望や傾向を十字架につける必要があります。使徒パウロは次のように説明しました。「しかし、わたし自身には、わたしたちの主イエス・キリストの十字架以外に、誇とするものは、断じてあってはならない。この十字架につけられて、この世はわたしに対して死に、わたしもこの世に対して死んでしまったのである」。「わたしはキリストと共に十字架につけられた。生きているのは、もはや、

わたしではない。キリストが、わたしのうちに生きておられるのである。しかし、わたしがいま肉にあって生きているのは、わたしを愛し、わたしのためにご自身をささげられた神の御子を信じる信仰によって、生きているのである」（ガラテヤ 6:14; 2:20）。

「わたしたちの主キリスト・イエスにあって、わたしがあなたがたにつき持っている誇にかけて言うが、わたしは日々死んでいるのである」。「自分のからだを打ちたたいて服従させるのである」（コリント第一 15:31; 9:27）。

「わたしに従ってきなさい」。神のみ言葉を研究することによって、わたしたちはキリストを知り、—そしてこのお方の救いの恵みによって、サタンと罪に対する勝利と同様、たえざる神との交わり、完全な明け渡し、そして神のみ心への従順、—というこのお方の模範に従うことができます。

世に打ち勝つ

ご自分のとりなしの祈りにおいて、キリストはご自分の御父からご自分の弟子たちのために次のようにお求めになりました、「わたしがお願いするのは、彼らを世から取り去ることではなく、彼らを悪しき者から守って下さることであります」（ヨハネ 17:15）。

神の知恵と目的のうちに、わたしたちはキリストの再臨までこの世の中で生きる必要があります。しかし、わたしたちは世の罪や習慣やならわしによって汚されてはなりません。パウロを通して、神はわたしたちにこの世の君の支配下にある人々から分離するよう求められています。

「光とやみとなんの交わりがあるか。キリストとベリアルとなんの調和があるか。信仰と不信仰となんの関係があるか。神の宮と偶像となんの一致があるか。わたしたちは、生ける神の宮である。神がこう仰せになっている、『わたしは彼らの間に住み、かつ出入りをするであろう。そして、わたしは彼らの神となり、彼らはわたしの民となるであろう』。

だから、『彼らの間から出て行き、彼らと分離せよ、と主は言われる。そして、汚れたものに触れてはならない。触れなければ、わたしはあなたがたを受けいれよう。そしてわたしは、あなたがたの父となり、あなたがたは、わたしのむすこ、むすめとなるであろう。全能の主が、こう言われる』。」（コリント第二 6:14-18）。

わたしたちは実例としてバプテスマのヨハネの生涯のうちに世に対するこの勝利を認めます。彼の生涯は、「非常に無我であり、謙遜と自己否定に特徴づけられていた。彼の教え、訓告、譴責は熱心で、誠実で、勇気あるものであった。自分の使命において、彼はだれかの称賛を求めて右や左にそれるようなことはなかった。彼は世的な誉れや、世的な尊厳を目指すことはなかった。かえって心と生活において謙遜で、自分のものではない誉を奪ったりはしなかった。」³

愛の使徒ヨハネは次のように宣言しています。「なぜなら、すべて神から生れた者は、世に勝つからである。そして、わたしたちの信仰こそ、世に勝たしめた勝利の力である。世に勝つ者はだれか。イエスを神の子と信じる者ではないか」（ヨハネ第一 5:4, 5）。

肉に勝つ

ガラテヤ 5 章には、二つの正反対な条件があり、次のことを説明しています。「肉の欲するところは御霊に反し、また御霊の欲するところは肉に反するからである。こうして、二つのものは互に相さからい、その結果、あなたがたは自分でしようと思うことを、することができないようになる」（17 節）。

それから、パウロは肉の働きを述べています。「肉の働きは明白である。すなわち、不品行、汚れ、好色、偶像礼拝、まじない、敵意、争い、そねみ、怒り、党派心、分裂、分派、ねたみ、泥酔、宴楽、および、そのたぐいである。わたしは以前も言ったように、今も前もって言うておく。この

ようなことを行う者は、神の国をつぐことがない」（19-21 節）

ニュー・インターナショナル訳版では、これらの習慣に対する警告をより現代の言葉で「性的不道德、不純、放蕩、偶像礼拝、まじない、憎しみ、不和、嫉妬、怒りの爆発、利己的な野心、不和、派閥争いや妬み、泥酔、宴楽、およびそのたぐい」と表現しています。

しかし、パウロは続けて、反対の祝福されたことについて描写しています。御霊の実は「愛、喜び、平和、寛容、慈愛、善意、忠実（信仰）、柔和、自制であって、これらを否定する律法はない」（22, 23 節）。

肉の行いと御霊の実を述べた後に、使徒はまたクリスチャン生涯における勝利の鍵を与えています。「キリスト・イエスに属する者は、自分の肉を、その情と欲と共に十字架につけてしまったのである。もしわたしたちが御霊によって生きるのなら、また御霊によって進もうではないか」（24, 25 節）。

「朽ちる賞与のために身体力の競争に入る人々は身体能力を弱めるような放縦を一切断つ厳密な節制の必要性を悟る。……

福音の競走に入る人々は、どれほどもっと律法にかなわない食欲の放縦を制し、『たましいに戦いをいどむ肉の欲を避け』るべきであろうか（ペテロ第一 2:11）。彼らはつねに節制していなければならない。一回勝利を得るための力を与えるその同じ節制が、常に実践するならば、命の冠のための競走において彼らを大いに有利にする」⁴

そうであれば、わたしたちの勝利は自分たちの命をキリストに明け渡し、神のみ言葉を通して聖霊に導かれることにかかっています。「しかし感謝すべきことには、神はわたしたちの主イエス・キリストによって、わたしたちに勝利を賜ったのである」（コリント第一 15:57）。

悪魔に打ち勝つ

サタンはキリストの大敵です。彼はわたしたちの救い主に対して天で戦争をはじめ、地上で継続しています。「さて、天では戦いが起った。ミカエルとその御使たちとが、龍と戦ったのである。龍もその使たちも応戦したが、勝てなかった。そして、もはや天には彼らのおる所がなくなった。この巨大な龍、すなわち、悪魔とか、サタンとか呼ばれ、全世界を惑わす年を経たへびは、地に投げ落され、その使たちも、もろともに投げ落された」（黙示録 12:7-9）。

「わたしたちの大敵は悪魔である。彼は食い尽くすものを求めているほえたけのししとして表されている。彼自身が天でしたように、自己を高め、嫉妬に満ち、力と優位性に対する野心を抱いてきた男女を見つけるとき、彼はいかに彼らを自分の誘惑によって導き、彼らが自分たちの力を彼のために使わせ、そして人類同胞を墮落させることにおいて彼の代理人にするかを知っている。彼は自分の人間の代理人を通して、自分を視野から隠すような方法で働く用意ができています。それは彼が状況という列車を運転し、人々を神から離れるように導き、キリストとつながっている人々の交友や親交から離れるように導き、そしてイエスを愛する人々を悩まし、苦しみ、失望させる働きをするよう感化することができるためである。誘惑の呪文が魅惑のようにこれらの魂をつかんでいる。「人が誘惑に陥るのは、それぞれ、欲に引かれ、さそわれるからである」（ヤコブ 1:14）。誘惑者の声に屈し、誘惑された者が徳と原則を明け渡して、ただちに悔悟と悔い改めをもって神に向き直る代わりに、神の力が自分のために働くことのできる最後のつながりを切ってしまう、地獄は彼が敵の餌食となったために勝ち誇る。こうして敵は魂を惑わし、弱った足にわなをかけると、そのあと彼は神を容赦なく許さないお方として表し、今罪を告白しても、神はお許しにはならないから無駄だと宣言する。誘惑された魂は、告発者であり破壊者である者の声を聞いて希望のない背信の道を取り、真夜中の闇に飛び込むことのないようにしよう。

神の約束を覚えていなさい。このお方は「イスラエルよ、あなたの神、主に帰れ。あなたは自分の不義によって、つまずいたからだ。あなたがたは言葉を携えて、主に帰って言え、『不義はことごとくゆるして、よきものを受けいれてください』。」（ホセア 14:1, 2）。主は次のように答えて下さる、

『わたしは彼らのそむきをいやし、喜んでこれを愛する。わたしの怒りは彼らを離れ去ったからである』（4節）。敵と絶縁し、イエスのご臨在を求めなさい。告白の涙と悔悟の悲しみをもってもう一度あなたの訴えを恵みの御座で申し立てなさい。主は聞いてくださる。主は答えて下さる。遅すぎる前に帰りなさい。』⁵

啓示者ヨハネはどのようにこの勝利が可能であるかを確認しています。彼は次のように述べています、「その時わたしは、大きな声が天でこう言うのを聞いた、「今や、われらの神の救と力と国と、神のキリストの権威とは、現れた。われらの兄弟らを訴える者、夜昼われらの神のみまえで彼らを訴える者は、投げ落された。**兄弟たちは、小羊の血と彼らのあかしの言葉とによって、彼にうち勝ち、死に至るまでもそのいのちを惜しまなかった。**それゆえに、天とその中に住む者たちよ、大いに喜べ。しかし、地と海よ、おまえたちはわざわざいである。悪魔が、自分の時が短いのを知り、激しい怒りをもって、おまえたちのところに下ってきたからである」（黙示録 12:10-12 強調付加）。

わたしたちは上記にヨハネが神の民の戦いと勝利をどのように述べているかを見ます。「**兄弟たちは、小羊の血と彼らのあかしの言葉とによって、彼にうち勝ち、死に至るまでもそのいのちを惜しまなかった。**」。

「彼ら〔政治的また宗教的権力〕は小羊に戦いをいどんでくるが、小羊は、主の主、王の王であるから、彼らにうち勝つ。また、小羊と共にいる召された、選ばれた、忠実な者たちも、勝利を得る」（黙示録 17:14）。

お分かりになりますか？勝利はすでにキリストによってわたしたちのために勝ち取られているのです。そしてこのお方と共にいる人々もまた自分の贖い主との結合を通して、勝利者になります。彼らは召され、選ばれ、そして忠実なのです。

わたしたちは勝利者になれるか？もちろんです！わたしたちがキリストを信じる自分の信仰を守り、このお方との生きたつながりを維持している限り。



ローマ8章でパウロの記した勝利の歌は、このメッセージを結ぶのに非常にふさわしいものです。

「それでは、これらの事について、なんと言おうか。もし、神がわたしたちの味方であるなら、だれがわたしたちに敵し得ようか。ご自身の御子をさえ惜しまないで、わたしたちすべての者のために死に渡されたかたが、どうして、御子のみならず万物をも賜わらないことがあろうか。だれが、神の選ばれた者たちを訴えるのか。神は彼らを義とされるのである。だれが、わたしたちを罪に定めるのか。キリスト・イエスは、死んで、否、よみがえって、神の右に座し、また、わたしたちのためにとりなして下さるのである。だれが、キリストの愛からわたしたちを離れさせるのか。患難か、苦悩か、迫害か、飢えか、裸か、危難か、剣か。『わたしたちはあなたのために終日、死に定められており、ほふられる羊のように見られている』と書いてあるとおりである。しかし、わたしたちを愛して下さったかたによって、わたしたちは、これらすべての事において勝ち得て余りがある。わたしは確信する。死も生も、天使も支配者も、現在のものも将来のものも、力あるものも、

高いものも深いものも、その他どんな被造物も、わたしたちの主キリスト・イエスにおける神の愛から、わたしたちを引き離すことはできないのである」（31-39 節）。

引用文献

1. 争闘 86.
2. 牧師への証 367.
3. SDAバイブル・コメンタリ[E・G・ホワイト・コメンタリ]5 巻 1119.
4. 同上 6 巻 1089.
5. ビュー・アンド・ヘラルド 1894 年 12 月 11 日

勝利の生涯

彼らは嘲られ、さげすまれた、
なぜなら、彼らの標準がより厳しいからである。
ある者は彼らを敗北者とみなした。
しかし、一人ひとり勝利者であった。

彼らは歴史を通じて来た—
時計を戻してみなさい。
気高いその人は、
エノクという名の人であった。

その後にアブラハムが続いた。
彼は自分の息子を捧げた。
しかし、神が介入され、
勝利は、勝ち取られた。

その後、ヨセフがいた—
兄弟にむごい仕打ちを受けたのであった。
他の人々を許す気高い生涯、
それが彼の生涯であった。

死に際し、彼らは称賛され、
彼らの墓にバラがまき散らされた—
しかし生涯は困難を伴っていた。
もう一人はモーセである。

その勇気をわれわれが大いに
称賛する一人の預言者：
神はエリヤに
天来の火で答えられた。

次はダニエルである、
奴隷と脅迫の運命にあった預言者—
その後、国家の頭となった。

彼らは人間に過ぎなかった—

ある者は弱く、苦闘する罪人であった。
しかし、イエスの導きを得て、
いかにすみやかに勝利者となったことか！

わたしたちが名を挙げたのはほんの数人であって、
ある人々にすぎない。
なぜなら、わたしたちもまた、
勝利者になるよう、命じられているからである！

時は今や近づいている。
神のほんのわずかな者のために。
これらの勝利者から学ぼうではないか—
あなたもその一人となるだろうか？

道は険しく、
道のりには苦痛が伴う。
しかし、わたしたちは思い出そう。
神ご自身の小羊がいかにほふられたかを。

眺めるときに、わたしたちの心は溶ける
損失ではなく、益のために—
すべてを十字架の下に
置くときに。

—B. モントローゼ